

FIJI

フィジーガイドブック



刊行にあたって

本ガイドブックは、太平洋諸島センター（PIC）が管轄する太平洋島嶼国14ヶ国のうち、フィジーに関する観光情報をできるだけ詳しく取りまとめたものです。また、同国についてより理解を深めて頂くために観光情報以外にも歴史、政治、経済、社会、文化等についても簡潔に説明を加えています。

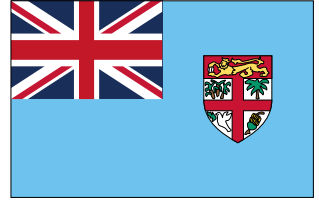
本資料で取り上げたフィジーは経済的には太平洋島嶼国の中で規模の大きい国で、観光面でも日本からかなりの訪問者が訪れています。本書がフィジーを訪問される際の参考となり、また同国への理解を深めて頂くための一助となれば幸いです。

なお、本改訂版の作成にご協力頂いたPehicle Tours多田様、在フィジー日本国大使館他関係者の方々に深く感謝致します。

2019年3月

国際機関 太平洋諸島センター

フィジー

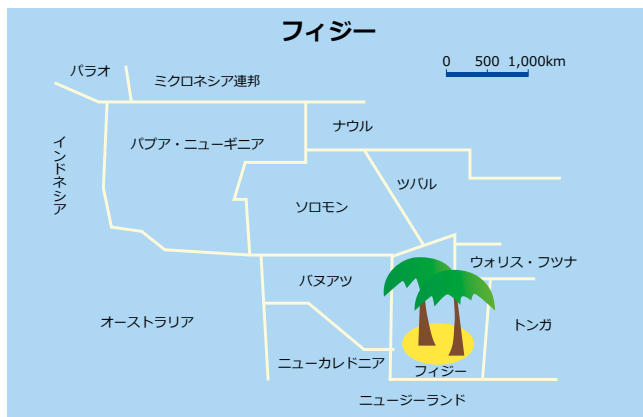


正式国名	フィジー共和国 (Republic of the Fiji Islands)
面積	18,270km ²
人口	884,887人 (2017年フィジー統計局)
首都	スバ (Suva)
民族	先住民系 (56.8%)、インド系 (37.5%)、その他 (5.7%) (Fiji Bureau of Statistics2007年データより算出)
主要言語	英語 (公用語)、フィジー語、ヒンディー語
宗教	キリスト教 (64.9%)、ヒンズー教 (27.7%)、イスラム教 (6.3%) (Fiji Bureau of Statistics2007年データより算出)
政体	共和制
1人当りGDP	5,589.39米ドル (世界銀行、2017年)
通貨	フィジー・ドル
電話の国番号	(679) + (相手先の番号)

目 次

フィジーの概要	2
フィジー旅行の一般情報	11
フィジーの交通事情	13
フィジーのアクティビティ	14
フィジーの宿泊事情	18
フィジーの食事情	19
ビチレブ島	20
ナンディとラウトカ	21
コーラル・コーストとパシフィック・ハーバー	32
首都スバとその周辺	37
バヌア・レブ島	46
ランバサとサブサブ	46
タベウニ島	47
オバラウ島とレブカ	49

フィジーの概要



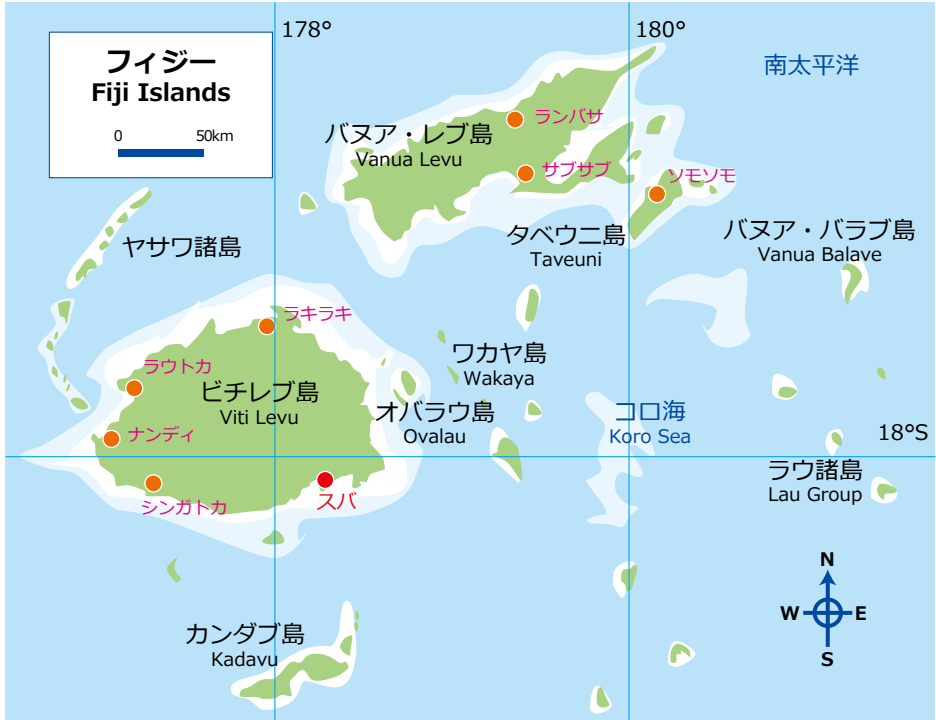
フィジー共和国の主島ビチレブ島は、オーストラリアから北東に約3,100km、ニュージーランドの北2,100kmほどの位置にある。330余りの島々から成り、土地の総面積は四国とほぼ同じである。最も近い太平洋島嶼国のトンガは770km離れた東に、西のバヌアツは1,100km離れている。

太平洋で最も人気の高い観光地の一つであるフィジーは、質の高い旅行を求めるリゾート派から行動派のバックパッカーまで、すべての旅行者の要望に応えられる観光立国である。また、フィジーは太平洋島嶼国の中では2番目に大きな人口を持ち、地理的に太平洋島嶼国の中心に位置していることから、地域のハブ的な役割を担っている。このため、太平洋の国々と地域で構成される地域協力のための国際機関、太平洋諸島フォーラム（Pacific Islands Forum, PIF）事務局や南太平洋大学（USP）がフィジーに設置されている。

白砂のビーチ、青く澄んだサンゴの海、咲き乱れる山の花々といった豊かな自然と、メラネシア、ポリネシア、インドの文化が織りなす独特の魅力はフィジーだからこそ味わうことができる。

フィジーを訪れる人々は、透明度の高い海や洗練されたリゾート・ライフを満喫するだけでなく、南太平洋の国々に残る独自の伝統文化に出会えることを、その魅力のひとつにあげる。

主島のビチレブ島は東西146km、南北106kmで、その南東部に首都スバがあり、西部には観光の中心地ナンディとフィジー第1の空港ナンディ国際空港がある。スバとナンディはビチレブ島の南部を走る全長211kmの舗装道路クイーンズ・ロードと東側を走る全長265kmの一部未舗装のキングス・ロードで結ばれている。



歴史

●先史時代

フィジーの遠い祖先は紀元前1500年頃に東ソロモンやバヌアツ方面から移住してきたと考えられており、パプアニューギニアに芽生えたラピタ文化を長い年月をかけてその後東へ広げていった。最初の移住者は海沿いに住んで魚を中心の生活を営んでいたが、紀元前500年頃になると人口の増加もあって農業にも力を入れるようになった。農業が中心の生活になってくると必然的に土地を重要視することになり、この頃から部族間で土地を巡る争いが多くなって

きた。

部族間の戦闘行為は部族を統率する首長の権限を強化することになり、次第に首長の権限が絶対化ようになっていった。通常は首長の兄弟そして次の世代に引き継がれることから、一族の中での指導権争いも激しかった。

●ヨーロッパとの出会い

最初にフィジーを訪れたヨーロッパ人は東インド会社のアベル・タスマンで、オランダからインドネシアへの航海の途次、1643年のことだった。次いで1774年に、キャプテン・クックがトンガへ行く途中

にフィジーの東の端にあるラウ諸島 (Lau Group) を訪れている。しかし、この両者ともフィジーの主島ビチレブを確認したわけではなかった。ビチレブを確認した最初のヨーロッパ人は1789年のバウンティ号の反乱で知られるキャプテン・ウィリアム・ブライである。キャプテン・ブライは乗組員の反乱の際48日間ボートで漂流するうちに、フィジーの39の島を確認して地図に記載している。

ヨーロッパ人がフィジーに本格的に進出するのは19世紀に入ってからで、それまではフィジーに住む人々は好戦的であり、航海者に敬遠されていた。

●貿易商と部族間の対立

19世紀に入ると捕鯨船の寄航が始まり、さらに白檀やナマコの貿易が盛んに行われるようになった。しかし、この貿易によってフィジーに銃器が多量にもたらされたことから、部族間の対立の深刻化と激しい戦闘が繰り返されるようになった。この激しい戦いを勝ち抜いたのがバウ族の首長ザコンバウ (Ratu Cakobau) で、彼はトンガの軍隊の支援を得て抗争に終止符を打ち、フィジー全土の統一に成功した。

●植民地時代

1871年、ザコンバウはフィジーの王として英国政府に認められ、3年をかけて行政組織を確立した。1874年10月に英国にフィジーを譲渡し、正式に植民地となった。首都をビチレブ島の東に位置するオバラウ島のレブカに定め、96年間に及ぶ植民地

の時代が始まった。

1875年に英国からアーサー卿が総督として着任し、やがてフィジーの主産業としてサトウキビの栽培を開始した。労働力の不足はインドから出稼ぎ労働者を送り込むことによって補った。これが今日でもインド系フィジー人の人口がフィジーの総人口の40%近くを占めるに至った原因である。一方、植民地政府は土地の外国人への売買を禁止したことから、土地に関しては82% (出典: University of South Pacific) が今日でもマタンガリと称する先住民系フィジー人の地域共同体によって所有されている。

1882年首都レブカは人口の増加に耐えられなくなり、首都を現在のスバに移した。

●太平洋戦争から独立へ

1942年から43年にかけて、約8,000人のフィジー軍はアメリカとニュージーランドの指揮下に入り、ソロモン諸島で日本軍との戦闘に参加した。

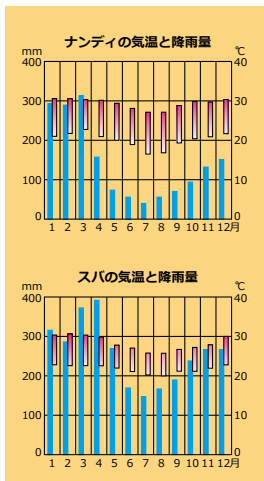
1970年10月10日、英連邦30番目の加盟国となり念願の独立を果たし、初代首相に故カミセセ・マラ (就任時は英国植民地政府の首席大臣) が就任した。1987年5月と9月に軍事クーデターが発生して共和制に移行し、国名をフィジー共和国に変更した。

立地

フィジーは、面積10,390km²のビチレブ島 (Viti Levu) から直径数mの小島を含む332の島(内222は無人島)で成り立っている。ビチレブ島に次いで大きいのはバヌア・レブ島 (Vanua Levu) で面積は5,538km²、3番目はタベウニ島である。フィジーは南緯12度から21度、東経177度から西経175度に位置し、180度の子午線がバヌア・レブ島の東端とタベウニ島を通っている。小さい島は一般にサンゴあるいは石灰岩によって形成されたものであり、一方、大きい島は火山がその起源となっている。フィジーの最高峰はビチレブ島の北部にあるTomanivi山 (Mt. Victoria) で標高1,323m。

気候

フィジーの年間平均気温は25℃と穏やかであるが、スバに比べてナンディはやや



高めとなっている。南半球が冬となる7月、8月はナンディでは20℃を下回り18℃まで下がることも珍しくない。しかし最も暑い夏でも31℃を超え

ることは比較的少ない。11月から4月が雨季で5月から10月が乾季となるが、年間を通してスバはナンディより雨の日が多い。したがってナンディよりも湿度が高く、スバは湿度60%から80%の日が続く。ビチレブ島やバヌア・レブ島などでは、島の中央に高い山があることから貿易風の影響で島の西側が東側に比べて雨が少なく、リゾート地が西側に多い理由にもなっている。11月から4月はサイクロンのシーズンであり、大型のサイクロンが来襲する年もある。

政治

フィジーは議員内閣制（一党制）をとっており、4年毎に実施される総選挙で与党となった政党の党首が首相に就任する。選挙制度は、全国を1選挙区とした非拘束名簿式比例代表制であり、2018年総選挙での議席数は51議席であった。国家元首である大統領（内閣他の助言によって公的権限を行使）は、議会において首相及び野党党首がそれぞれ候補者を1名指名し、議員による投票で選出される。

99年5月の総選挙でチョードリーが初のインド系首相に就任した。2000年5月、先住民系の権利擁護のためインド系政権の交替と97年憲法の廃止、マラ大統領の辞任等を主張する武装勢力が議회를占拠し、チョードリー首相ら閣僚30名を拘束する事件が発生した。同月バイニマラマ軍司令官が同事件の解決を図るべく行政権を掌

握、戒厳令を発令し、97年憲法は政令により廃止された。7月、人質は解放され、イロイロ大統領、セニロリ副大統領が任命された。同月、ガラセ首相率いる暫定文民政権が発足した。11月、ラウトカ高等裁判所が暫定政権を違法とする判決を下し、2001年3月には控訴裁判所もこれを支持する判決を下した。同月、イロイロ、セニロリ正副大統領が再度任命され、ガラセ選挙管理内閣が発足。2001年8月には総選挙が行われ、ガラセ新政権が誕生した。以来2000年クーデターの事後処理等をめぐり、野党労働党との対立が続き、ガラセ首相とバイニマラム司令官との確執も先鋭化していった。2006年3月、ガラセ首相は議会を解散、総選挙に踏み切り、与党統一フィジー党が再び過半数の議席を得て首相に再任され、労働党との連立政権を組織した。しかし、同年12月、バイニマラム軍司令官はガラセ政権の腐敗肅正等を理由にクーデターを決行、バイニマラム司令官が首相として暫定政権を率いることとなった。このクーデターに対しては国際社会、特にオーストラリア、ニュージーランド、EUが批判し、速やかに総選挙を実施して民主主義体制に復帰するよう強く迫った。2009年4月、1997年憲法が廃止。バイニマラム暫定首相は首相に就任した。

同年7月、バイニマラム首相は「変化のための戦略的枠組み」と題するロードマップを発表。9月には英連邦から完全に資金を停止された。2013年には新憲法が公布



スバの政府庁舎

された。

バイニマラムは2014年9月の総選挙で首相に再任。2016年には内閣の改造が行われ、外相も兼任することとなった。

2018年11月に行われた総選挙では、バイニマラムの首相再任が決定された。

経済

20世紀の大部分は砂糖産業がフィジー経済を支えてきた。現在では、砂糖産業と年間約84万人の訪問者を迎え入れている観光産業及び海外在住のフィジー人からの送金がフィジー経済の屋台骨を支えている。主な輸出品はミネラルウォーター、砂糖、金、衣類、魚類等である。輸出先は2017年の統計によれば米国が第1位で、オーストラリア、英国、スペイン、ニュージーランドがそれに続いている。また、主要輸入品は金属製鉱産物、機械・輸送機器、工業製品、食料・雑貨品、石油等で輸入先はシンガポールが最大で、ニュージーランド、オーストラリア、中国、韓国が続いている（アジア開発銀行、2017年）。

しかし、フィジー社会もグローバルイ



スバのマーケット（写真提供：Pehicle Tours）

ゼーションの影響を受け、伝統的な自給自足経済も徐々に変化し、経済の発展と共に都市部を中心に貧富の差が拡大している。伝統的な村社会を捨て都市部に流入する人口の増加が続き、自給経済から離れることで貧富の差が広がり、それに若年層を中心とする失業者の増加が深刻な問題となった。

2000年5月のクーデターは発展しつつあった経済に大きな打撃を与えたが、程なく観光産業、建設業が急速に回復、観光客数も右肩上がりが増え2017年には84万人を超えるまでとなった。一方、伝統的な砂糖産業は近代化に遅れ徐々に国際競争力を失っている。2006年12月のクーデターによる経済への打撃も極めて大きく深刻なものであったが、2010年以降は順調な経済成長が続いている。

人口と人々

フィジーの人口は2017年のフィジー統計局統計で88.4万人となっている。その約半分が27.5歳以下の年齢層に属する。居住地域については、人口の約56%が都

市部に生活している。全人口の81%がビチレブ島に、15%がバヌア・レブ島、残り4%がその他の島で生活している。フィジーは多民族国家で、インド系やヨーロッパ系及び中国系などを除く先住民系フィジー人は全体の約半数である。また、フィジアンといっても一言で総括することは難しく、文化的にも身体的にもメラネシア、ポリネシア、ミクロネシア、ヨーロッパ、アジア等地域の多彩な影響を受けている。それは複雑さだけでなく、生活や文化に豊かさをもたらしている。

●先住民系住民とインド系住民の確執

前述したようにその数は拮抗しており、これがフィジーの社会問題の原因ともなっている。2007年の調査では先住民系56.8%、インド系37.5%。インド系フィジー人は比較的都市生活者が多いため、スバやナンディの都市部を訪れた観光客は、インド系フィジー人の割合が数字よりも高く感じられるかもしれない。

フィジーにインド系フィジー人が多い理由は、1879年にサトウキビ栽培のため同じ英国の植民地だったインドから労働者が植民したことに始まる。労働意欲が旺盛で確固たる経済観念を持つインド系フィジー人はよく働くことから使用者側の英国人に受けが良く、インド人の移住者は増え続けることになった。インド人が植民してから91年後の1970年、フィジーが英国から独立した後もインド人はフィジーに留まりインド系フィジー人社会は膨張し続けた。

初めはインド系フィジー人に対して特別な感情を抱いていなかった先住民系フィジー人であったが、独立後の経済発展で貧富の差を生むようになり、経済観念に優れたインド系フィジー人は次第にフィジーでの立場を強化することになった。1987年にインド系フィジー人を支持層とする「国民連合党」及び「労働党」が、それまでのフィジー人による伝統的支配に勝利、政権を奪取したことから、先住民系フィジー人はインド系フィジー人を明確に意識し敵対するようになった。これが1987年5月および9月の軍事クーデターを引き起こすことに繋がっている。ランブカ大佐によるクーデターで、2度目の9月のクーデター後に、それまでの立憲君主制から共和制への移行が宣言された。

2000年5月にクーデターが勃発した時には、先住民系とインド系の対立が従来にも増して顕在化していた。このため、インド系で専門的技術・知識を身につけた人々はオーストラリア、ニュージーランドへ移住するケースが増え、フィジー経済への影響が懸念されるまでになった。2006年12月のクーデターは、先住民系とインド系の直接的対立に起因するものではないとされるが、インド系の人々の国外流出は依然として止みそうにない。フィジーは、多種多様な人々との共存および国家統一が重要な課題の一つとなっている。

社会と生活

フィジーは約88万人の人口を有し、前述のごとく先住民系住民とインド系住民他で多民族国家を形成している。先住のフィジー人をKaiviti、インド系フィジー人をKaihidi、ヨーロッパとの混血その他のフィジー人をKaivelagiと呼んでいる。現行憲法では、これら全ての民族をフィジー人（“Fijian”）としている。インド系フィジー人はベンガル地方やビハール地方などの影響が強いと言われている。

先住民系とインド系では、日常生活でも考え方が大きく異なっている。先住のフィジー人はマタンガリという出自集団、いわゆる大部族がひとつの単位になっており、一族の年長者を尊敬し互いに助け合って生活する昔からの習慣が今日もそのまま残されている。たとえば、フィジーの土地の大部分はマタンガリの共同所有であり、土地の売買は法的に禁止されている。都会に働きに出て行った若者が希望叶わず村に戻って来ても、一族が所有する土地で農業を営むことができる。しかしインド系の人々は、同様なケースの場合でも、地方で簡単に農業を始められる訳ではなく、先住のフィジー人から土地を借りる必要がある。新たなチャンスを求め、オーストラリア、ニュージーランドなどに移住を望むインド系住民が増えている。

●都市での確執と貨幣経済

都市部の小売業では、従業員としては先住民系及びインド系の双方が従事している

ものの、経営者はインド系である場合が多く、また、事務系の業種においても民間セクターでは中間管理職以上にはインド系が多い。小売店や事務所の土地を所有しているのは先住民系であるため、一部の先住民系は高額の土地収入を得ることができるが、一般的に先住民系の現金収入はインド系よりも低いと認識されている。先祖代々の土地に根付いて生活している先住民系には自給自足的な生活習慣が強く残っているが、都市化と貨幣経済の浸透により、現金収入が重要になってきたため、先住民系とインド系、また、先住民系の間での貧富の差が以前よりも強く意識されるようになってきている。最近の傾向としては、中国系移民の増加がある。商売熱心な彼らは、小売商、中華レストラン等の経営で頭角を現しつつある。

●伝統的生活習慣を守る

フィジーはメラネシア文化圏に入っているが、先住のフィジー人はかつて隣国トンガを通じポリネシアの影響も強く受け、2つの文化圏の伝統を引き継いでいる。たとえば、一族の誰かが予想外の利益を得ると、それを一族で分配するメラネシアの伝統的な共同生活の習慣を今も守っている。また、冠婚葬祭の時は、必ず一族が集まって祖先とロボ料理を共にすると言われている。ロボ料理は地中に掘った穴に焼けた石を置き、その上にバナナの葉を敷き詰めて豚肉や鶏肉、魚、タロイモ、果実を入れ、その上をバナナの葉で覆って3～4時間蒸す、

南太平洋で一般的なローカル料理である。

●服装

フィジーの首都スバで見かける人々は、ビジネスマンはシャツとスラックス姿が多く、若者はTシャツにジーンズが増えていく。フィジー人男性の伝統的正装は、スルと呼ばれる巻きスカートにネクタイ姿である。女性の正装はロングワンピースの下にスレイラというワンピースより長いスカートを着用する。普通は膝下までであるカラフルなワンピースやスカートとブラウスが多い。女性観光客が村を訪問する時は、肩を露出した服装やショートパンツ姿は好まれないので注意したい。



ネクタイ、Yシャツにスルを着用する人

教育

フィジーは南太平洋の教育の中心地であり、他の太平洋諸国に比べて充実した教育環境が整っている。フィジーには義務教育の定めはないが、ほぼ100%の子どもが小学校に入学・卒業、そのほとんどが中学校に進学する。小中高等学校の授業料は無料である。地方の子どもは都会の学校に通うために寮に入居したり親戚の家に寄宿したりしている。インド系フィジー人の多くは

ヒンズー教やイスラム教団体が経営する学校へ、先住フィジー人の子弟はキリスト教の学校に進学するケースが多い。

高等教育としては、首都スバに1968年に設立された南太平洋大学、2004年に新設されたフィジー大学、2010年に6つの専門高等教育機関が合併して設立されたフィジー国立大学がある。

宗教

全人口の64.9%がキリスト教徒で最も多く、ヒンズー教徒が27.7%、イスラム教徒が6.3%である。社会生活から政治、教育にいたるあらゆる分野で宗教の与える影響は大きい。フィジーには伝統的な宗教もあるが、その神であるデンゲイとエホバが同じ神だという説や、ノアの箱舟と同じ様な伝説があって、フィジーの双子の神が白人の国に行ってエホバとキリストになったという話が今に伝えられている。

●先住フィジー人

先住のフィジー人はほぼ100%がキリスト教徒であり、それぞれの村に教会があり、多くはメソジスト派である。大きな村落には複数の宗派もあるが、一族の長に従って宗教を選んでいる。インド系フィジー人の約1%がキリスト教徒である。

植物と動物

フィジー原産の植物と動物の多くがオーストラリアやインドネシア、マレーシアの動植物と関連して考えられている。また、植物が豊富な理由としてはフィジーの島々が、かつてオーストラリアやインドネシアと陸続きだったことの証でもあるとの説がある。

●植物

フィジーには3,000種類以上の植物が確認されており、その中には数百種類のシダ類が含まれる。蘭の種類も豊富である。シダには食用に適したものもあり、また、伝統的な建築物である「ブレ」の屋根の一部



伝統的建造物のブレ (写真提供: Tourism Fiji)



マーケットで売られるダロ



所々で見ることができる、美しいハイビスカス

に使われていた熱帯特有のシダもある。

食用植物としてはタピオカ（キャッサバ）やダロ（タロ芋）、ブレッドフルーツが主要産物である。特に、ダ

ロには多くのたんぱく質が含まれており、また種類も多いのでフィジーの人々の貴重な栽培植物である。バナナやパパイヤ、マンゴーも豊富。なお、南の国の象徴となっているハイビスカスは、19世紀にアフリカから輸入されたものである。

●動物

フィジー特有のものとしてはフルーツバット（コウモリ的一种）があるが、犬や豚などの家畜類はすべて先史時代の移住者やヨーロッパ人によって持ち込まれたものである。

フィジーの動物相の豊かさは何と云っても海中にある。数百種のサンゴや1,000種類以上の魚たちがダイバーを楽しませてくれる。サンゴの他にも軟体動物やヒトデ、ナマコ、ウニなどの無脊椎動物が想像を絶する姿を見せる。魚類もカラフルであり、水中撮影の人気者バタフライフィッシュやエンゼルフィッシュ、イソギンチャクと共生するアネモネフィッシュ、刺で自分を

守るライオンフィッシュ（カサゴの一種）はその美しい刺に毒を隠している。外洋では、マグロやバラクーダ（大型カマス的一种）の他にサメやマンタなどもフィジーを訪れるダイバーに人気がある。

フィジー旅行の一般情報

フィジーは、全土を通じて年間平均気温約25℃と気候に恵まれているが、ベストシーズンは乾季である5月～11月、中心となるビチレブ島では、ナンディのある西側と、首都スバのある東側では気候が異なり、12月～4月は西側より特に東側に雨がが多い。

●観光情報の入手

①フィジー政府観光局：

<http://www.fiji.travel/>

②Fiji Village.com:

<http://fijivillage.com/>

③フィジーエアウェイズ：

<https://www.fijiairways.com/en-us/>

④サウスパシフィックオセアニア：

E-MAIL : info@spofj.com

TEL : 672-6200 FAX : 672-6411

⑤H.I.S. フィジー： www.hisfiji.com

●フィジーへの航空路

日本からフィジーへはフィジー・エアウェイズ（FJ）が成田～ナンディ間の直行便を週2便火、金曜日に運行している。（繁忙期などは週3便出ている。）所要時間は約8時間30分。他にもキャセイパシフィック（CX）の香港経由や大韓航空（KE）の

仁川経由ナンディ行きがある。

● 入国と出国

観光を目的とする4ヵ月以内の滞在にはビザは不要である。ただし、入国日から滞在日数プラス6ヵ月以上有効なパスポートと出国の航空券を所有していることが必要。フィジー移民局（スバ、ラウトカ、ナンディ）への申請により、ビザ免除による入国許可は、最長6ヵ月まで延長することも可能である。その場合、フィジー出国便のチケットおよび延長期間の十分な滞在費用の所持を証明する必要がある。6ヵ月以上の滞在を希望する場合は、フィジー移民局に相談するか、ウェブサイト（www.immigration.gov.fj）を参照したい。出国税については、あらかじめエアチケットに含まれているので、空港で支払う必要はない。

● 税関／検疫

商用目的でなければFJD1000まで物品を無税で持ち込める。さらに17歳以上であれば酒類2.25L、ワイン4.5L、またはビール4.5Lを無税で持ち込める。タバコは紙巻き200本、または葉巻・葉タバコ200gあるいは3週類の合計が200gまで無税。動植物と肉類およびそれらの加工品、乳製品の持ち込みは厳禁とされている。食品の持ち込みは必ず申告する必要があり、怠るとFJD400の罰金が生じる。（参考：Fiji Revenue and Customs Service <https://www.fracs.org.fj/our-services/customs/visiting-fiji/arriving-in-fiji/>）

消費税還付システムの導入（旅行者の

み）：指定のおみやげ物屋でFJD500以上の買い物をした方が対象。ナンディ空港の出発ターミナルにあるTVRSのカウンターで申告できる。（商品を見せる必要があるため荷物をチェックインする前に手続きをすること。）消費税の還付はフィジードルなので、近くの両替商または銀行で外国紙幣に両替しなければならない。消費税還付システム詳細（英語）：<https://www.fracs.org.fj/wp-content/uploads/2018/05/TVRS.pdf>

貨幣持ち込み/持ち出し額の制限：FJD10000（または同額の外国貨幣）を持ち込む又は持ち出す場合はボーダー通貨報告書に申請記入しなければならない。

● 両替

2018年10月時点でFJD1.00=58円。銀行、両替商で日本円から両替できる。両替商のほうが若干為替がいい場合がある。

● 通貨

紙幣：100、50、20、10、5ドル
硬貨：2ドル、1ドル、50セント、20セント、10セント、5セント
5セント以下は切り下げ、切り上げられる。

● 消費税

消費税は9%で全ての商品とサービスにかかり、一般的には税込み価格で表示されている。それ以外にサービスターンオーバータックスと環境税（計16%）は、年間120万ドル以上の売り上げのある会社が業種に関係なく対象になっている。大手のおみやげ物屋や飲食店、ホテルでは一般に

計25%の税込価格で表示されている。

●クレジットカード

カードスキミング被害が発生しており、被害防止に努めることが推奨される。ホテルの予約やチェックインの際にクレジットカード番号を求められることがあるが、不審なカメラやスキミング装置が設置されていないか等十分確認し、可能な限り他者に情報を漏らさないよう十分注意すること。カードを使用した場合は、取引記録をチェックし、不審な取引が認められる場合は速やかに発行元のカード会社等に連絡すること。

●郵便

おおむね月～金 8：00-16：00に営業しているが、地域により異なる。ポストカードはFJD0.50またはFJD1.10（サイズにより異なる。）

●国際電話

日本（例：東京03-1234-5678）へ電話をかける場合、00+81（日本の国番号）+3（市外局番から頭の0を除いた番号）+1234+5678とダイヤルする。

●時差

日本より3時間早い。毎年11月初旬から翌年1月中旬まで約3ヶ月間サマータイムを導入しており、その期間の日本との時差は4時間。

●飲み水

主な都市の水道水は飲料水として利用しても問題ないと言われているが、大雨の後

は水が濁ることもあるため煮沸することが推奨される。断水も頻発するため、水道タンクのないホテルを利用する場合は、ミネラルウォーターを常備すること。

●電気

電圧は240ボルトで周波数は50HzでプラグはO型。雨季は雷が発生すると頻繁に停電する（特に西部地区。）

フィジーの交通事情

●飛行機

フィジーは南太平洋のハブ空港となっており、他の南太平洋諸国に旅行する場合、トランジットすることが多い。またフィジー国内も多くの島々から構成されていることから、飛行機は船と共に必須の交通手段となっている。

主要な空港は、外国からの玄関口となるナンディ国際空港と、国内線のハブ空港でもあるナウソリ国際空港の2つである。主な国内線航空会社はFIJILINKとNORTHENAIRである。

FIJI LINK：

TEL：672-0888 URL：www.fijilink.com

Northern Air Service：

TEL：347-5005 URL：www.northernair.com.fj

●航路

フィジー第二の島、バヌアレブやタバウ二島、オバラウ島などへは船も定期的に出ている。主に、現地の人々が利用しているため船代もリーズナブルである。大手の船会

社はパターソンブラザーズ・ SHIPPING である。

Patterson Brothers Shipping Ltd:

TEL : 331-5644 URL : www.fijisearoad.com

●バス

本島のバス路線は整備され、バス料金も利用しやすい設定になっている。現在、バス料金の支払いは電子カードのみとなっているため、事前に携帯電話の直営店（VODAFONE）にて電子カードを購入しチャージしておく必要がある。時刻表はバスターミナルで入手できる。主な長距離バス会社は、サンビームやパシフィックトランスポート、サンセットエクスプレスがある。小グループで、各地を移動する際は貸しきりサービスなど臨機応変に対応できるハイヤーカー会社を利用するのが安全で便利だ。

下記URLより、HISフィジーによる専用車の手配が可能。

<https://tour.hisfiji.com/so/?stgt=1>

●タクシー

メーターがついている場合は、出発前にメーターをオンにしてもらう。ホテルによっては、ハイヤーカー（メーターがついていない）のみの利用となるため事前に料金を確認してから利用するのがよい。ハイヤーとタクシーの見分け方は、ハイヤーの場合はナンバープレートがLH…、タクシーの場合はルーフにTAXIサインがついているのとナンバープレートがLT…となっている。



タクシー



ハイヤー

●レンタカー

フィジーの交通ルールは日本と同じく左側通行だが、信号機以外に交差点でロータリーシステム（右側から入ってくる車が優先）があったり、村付近では減速用にロードランプが設けられていたりする。また、警察の取り締まりも非常に多いので法定速度での運転を心掛けたい。郊外では街灯がほとんどなく人や動物が急に飛び出てくることがあるため、夜間の運転には注意を要する。

フィジーのアクティビティ

●サーフィン

本島（主に3箇所）と離島（タバリア周辺に6箇所）他にも多数あり、以下のポイ



写真提供：Tourism Fiji

ントが観光で来た場合にナンディから行くことのできる場所である。

本島でサーフィンができる場所は主にナタンドラ（右&左のポイント）、シガトカ砂丘（ビーチブレイク）、ハイダウェー。シガトカ砂丘以外全部のポイントはリーフブレイクである。

本島のリーフブレイクでは満潮の前後2時間しかサーフィンができないため、潮見表をみて出発時間を決定する必要がある。

タバリア周辺（アウトアー）のポイント

1. クラウドブレイクCB潮（タイド）に
関係なくできる。グーフィー
2. ナモツレフト タイドに関係なくほぼ
できる。グーフィー（メローな波）
3. スイミングプール タイドに関係なく
できる。レギュラー（メローな波）
4. ウィルクスパス 満潮前後3.5時間
レギュラー
5. タバルアライト 満潮前後4時間
レギュラー（メローな波）
6. レストランツ 満潮前後3時間
グーフィー

タバリアへのアクセスは各サーフ会社の

ボートで行けるが、タイドに関係なく大体午前7：30に出発し、ポイントに午前8：30頃着く。主なボートトリップを行っている会社はFIJISURFである。選べるなら午前中満潮の週を狙ってフィジーに来る手配をすれば、ポイント選びに幅が広がる。もちろんタイドに関係なくできるポイントもあるが、干潮時は、潮の流れが強い日もあり、また浅いので十分注意が必要である。

Fiji Surf：

TEL：+679 6705960

URL：www.fijisurfco.com

●ダイビング

フィジーは豊かなサンゴと魚、海洋生物が生息する、とても美しい海を有しており、その素晴らしい水中世界を垣間見れば、訪れたダイバーは皆魅了されることだろう。

ナンディのある本島ビチレブ島には特徴的なダイビングスポットが2カ所ある。

1つ目はサメの餌付けで世界的にも有名なベンガエリアの保護区シャークリーフで、通常パシフィックハーバー付近に滞在してダイビングする。ここでは7種類のサメを安全に見ることができ、運が良ければタイガーシャーク（イタチザメ）にも遭遇できるだろう。

2つ目は本島北端近くのラキラキに滞在して目指す本島とバヌアレブ島の間の深い海峡「ブライウォーター（バトウイラ海峡）」のリーフだ。透明度の高い豊富な水流は色鮮やかなソフト&ハードコーラル、無数のコーラルフィッシュを育み、サメ、バラクー

ダ、イソマグロなどの回遊魚が悠然と泳ぐ魅力的スポットである。

この2か所は経験豊かなダイバーも感動する素晴らしいスポットだが、ともにナンディから車で片道約3時間近くかかるため、ダイビングを目的にした旅行者向けといえるだろう。一方ナンディ近くのゾートアイランド、デナラウ島の港から毎日ダイビングボートを出しているダイビングショップを利用すれば、ナンディ周辺に滞在してビギナー向けの日帰りダイビング、また未経験者向けの体験ダイビングといった手軽なダイビングトリップも楽しむことができる。

さらに本島以外でもダイビングが可能。例えばタベウニ島では、対岸のバヌアレブ



シャークリーフ (画像提供：有限会社PNGジャパン)



ブライウォーター (画像提供：有限会社PNGジャパン)

島との細くて深い「ソモソモ海峡」が魅力的なスポットで、切り立った壁一面が真っ白なソフトコーラルで覆われた「グレートホワイトウォール」など、ここでしか見ることができない水中景観を楽しむことができる。

・シャークの餌付けダイビング (パシフィックハーバー)

ベンガアドベンチャーダイバーズ

URL : <http://fijisharkdive.com/>

・ブライウォーターのリーフダイビング (ラキラキ)

ポリポリビーチリゾート

URL : <https://www.volivoli.com/>

ワナナブビーチリゾート

URL : <https://www.wananavu.com/>

・ナンディ周辺でのダイビング

ホワイトチップマリンアドベンチャーズ

URL : <http://whitetipmarineadventures.com/>

その他ダイビングに関する詳細は下記まで:

(有)PNGジャパン

〒102-0073 東京都千代田区九段北1-7-3 九段岡澤ビル1階

TEL : 03-5226-7731

FAX : 03-5226-7669

Email : info@png-japan.co.jp

URL : <https://fiji.travelworkshop.jp/>

●フィッシング

フィジーの海は許可なしに釣りをすることは禁じられており、必ず現地のフィッシングガイドと一緒に行動することが求められている。魚影の濃いフィジーではリー



写真提供：フリーライドアングラズ

フでの小物釣りから、スピードボートをチャーターしてトローリングやルアーキャスティング、ジギング等、様々なスタイルのフィッシングを楽しめる。特に世界的に人気のあるGT(ジャイアントトレバリー)のルアーキャスティングは最高の釣場として知られている。ビギナーからベテランアングラーまでレベルに合わせたポイントの選択、ガイドングが可能。

フィッシングに関する詳細は下記まで：

フリーライドアングラズ（株式会社ジェイトリップ）

東京本社：東京都港区港南2-15-1

品川インターシティA棟28階

大阪支店：大阪市中央区西心斎橋1-5-5

アーバンBLD心斎橋7階

TEL：050-5810-4452

FAX：06-6224-5388

URL：<http://www.worldfishing.co.jp/>

●リゾート・クルーズ

フィジーのクルーズには、半日または1日クルーズ、ディナー・クルーズ、そして豪華客船に宿泊しながらのものまで、さまざまなクルーズが用意されている。ピチレ



写真提供：Tourism Fiji



写真提供：Tourism Fiji

ブ島の大規模リゾートの快適さは申し分ないが、より美しい透明度の高い海を楽しみたいのならクルーズに参加するのが最適かもしれない。

一般的なのはナンディのデナラウ港から出発するママヌザ諸島のデイ・クルーズである。ただ、デイ・クルーズの場合は出発時間が早いので、ナンディの近くに滞在していない場合早起きをしなければならない。

デイ・クルーズを選ぶ場合のポイントは、何がしたいかを明確にしておくことである。デイ・クルーズのコースにはママヌザ諸島の主な島の多くが含まれているので、ダイビングなのかシュノーケリングなのか、それとも静かな浜辺でのんびりしたいのかによって選ぶコースが違ってくる。また、デイ・クルーズに使われる船も、ス

ビードを重視するものからクラシックな帆船まで数種類用意されているので、現地のパンフレットで確認して気に入った船に乗ることだ。また、映画「青い珊瑚礁」の舞台となったヤサワ諸島へのクルーズには2泊3日～6泊7日のコースがあり、一番の人気は3泊4日のクルーズ。

●ゴルフ

フィジーにはデナラウ、ナタンドラ・ベイ、ザ・パール・チャンピオンシップ・ゴルフクラブの3つの主なゴルフ場がある。デナラウとナタンドラに関しては、年に数回プロのトーナメントが開かれており、18ホールで7000ヤードのコースが整っている。クラブハウスも隣接しているので、食事やシャワーの心配もない。

デナラウ・ゴルフ & ラケットクラブ
(Denarau Golf & Racquet Club, TEL : 675-0643)

シェラトン・リゾートに隣接するデナラウ・ビーチの湿地帯を埋め立てて造られたゴルフコースで、全体的にフラットなコースであるが、池や川が巧みに配置されており、飽きさせない。宿泊者が中心のクラブ



写真提供 : Tourism Fiji

で、グリーンフィーは18ホールがカート代を含んでF\$160ほどである。

●トレッキング

日帰りから3-4日かけて本島の様々なトレイルを体験することができる。フィジー最高峰マウントビクトリア、または滝へ行くコースも。マウントビクトリアを目指すトレッカーは乾季がお勧め。

トレッキングに関する詳細は下記まで :

Talanoa Treks

TEL : +679 9980560

Email : info@talanoa-treks-fiji.com

URL : <https://talanoa-treks-fiji.com/>



写真提供 : Talanoa Treks

フィジーの宿泊事情

フィジーは観光と砂糖産業が経済の2本柱であり、年間の観光客を含む訪問者数は2017年の統計では85万人と南太平洋島嶼国では群を抜いている。それだけに宿泊施設も旅行の目的と自分の好みや予算に合わせて選べる。ちなみに料金だけで見ると、1泊F\$10.00～2,000.00である。日本からフィジーを訪れる観光客の多くはパッケージ・ツアーの参加者で、近年リゾート

で結婚式を行う家族連れも少なくない。

フィジーの食事情

フィジーには先住民であるフィジー人と移民のインド系（インドフィジアン）から構成されている。フィジー人の主食は、キャッサバやタロイモなどの炭水化物中心で、肉や魚をココナッツで味付けしている。インド系の家庭では、カレー中心でさまざまな種類がある。街にはファストフードや外食産業も増えてきている。

●伝統料理

主なものはロロ（Lolo）とココンダ（Kokoda）、ロボ（Lovo）料理などである。ロロ料理のロロはココナッツ・ミルクのこと。魚や野菜をココナッツ・ミルクで煮たり、あるいは炒めた豚肉や牛肉をココナッツ・ミルクで煮たタロイモの葉で包んだもので、一般家庭の食卓によくあがる。ホテルのビュッフェでも食べられる。

ココンダ料理はフィジー風刺身として日本でも紹介されている。分かりやすく言え

ば、刺身をココナッツ・ミルクとライム・ジュースでマリネしたもので、さっぱりしている。

ロボ料理は地中に掘った穴（ロボ）にバナナの葉を敷きつめて豚肉や鶏肉、魚、タロイモなどを入れ、その上にバナナの葉を被せ、さらに熱く焼いた石を乗せて3～4時間かけて蒸し焼きにしたもの。南太平洋の代表的な料理で、ポリネシアではウム料理と呼ぶことが多い。



ココンダ

ビチレブ島



ビチレブ島はフィジーの主島で、フィジー全人口の約81%が生活している。島の北部には有名なフィジー最高峰マウントビクトリア（1,323m）がある。ビチレブ島の西側にナンディ国際空港が位置しており、リゾート地として発展している。首都であるスバは東側に位置しており、行政や各国際機関が点在している。

首都スバは島の東側にあり、西には遠距離中心のフィジー第1の国際空港を持つナンディと、西地区の行政の中心地ラウトカがある。ナンディ国際空港はナンディの中心地から北9km、ラウトカの南24kmにある。首都スバの北23kmには、フィジー第2のナウソリ国際空港がある。ここはフィジー国内の路線のほか太平洋諸国から国際便が乗り入れている。日本からスバに行く場合は、ナンディ国際空港で乗り換えて、ナウソリ空港へ行くのが一般的である。ナンディ国際空港から陸路をスバに行くには、ナンディを経由する南回りのクイーンズ・ロードで約200km、また、北回りはラウトカからキングス・ロードを利用して約290kmのドライブとなる。

首都スバは行政、経済、教育などフィジーの中心地であり、南太平洋島嶼国の中心としても活気に満ちている。一方、ナンディを中心に、その西の洋上に散在する島々は世界で有数のリゾート地として知られる。

ナンディとラウトカ

日本から飛行機でフィジーへ訪れる際には、すべてナンディを起点とすることとなる。ナンディ国際空港の恩恵により、大規模なリゾート開発が行われ観光を始めとする産業の中心地へと飛躍している。ナンディの北約30kmに位置するラウトカは、フィジー第二の都市にふさわしい活気ある港町である。フィジー最大のさとうきび精製工場やフィジー産のビール工場もある。



ナンディ

ナンディの中心街は、約800mのメインストリートに店舗が並んでいる。店舗の営業時間は午前8時から夕方5時まで（月-金）、土曜日は午前8時から午後1時まで、日曜日は休みとなっている（ただし、観光客を相手とした店舗は週末も平常通りの営業をしている）。

ナンディの中心街

ナンディの中心街は、南北に走る全長約700~800mのメイン・ストリートの両側にまとまっている。メイン・ストリートと交差するホスピタル通りに中央マーケットとバス・ターミナルがある。ホスピタル通りは名前の通りナンディ病院に続いている。空港方面から来てメイン・ストリートに入るとすぐ右側に数軒のレストランが並んでいる。その先には土産物店やブティックなどが続き、左側にRBとMHという2軒の大きなスーパーマーケットが隣り合っている。その向かいにはフィジーの民芸品店では最も知名度の高いジャックス・ハンディクラフトがあり、その奥にはレストランのシェフズとその姉妹店2店がある。主な銀行もここに集まっている。中心街は端から端まで歩いて10分ほどである。

ナンディの見どころと観光ツアー

政府観光局

(Tourism Fiji, TEL : 672-2433)

ナンディ国際空港から南に約2kmのナマカ地区のコロニアル・プラザ内にあり、来訪者への対応に当たっている。旅行会社の広告のみならず、無料の観光案内パンフレット類も豊富であり、係員も気軽に質問に応じてくれる。ナンディ到着後早い機会に訪れたい。



カラフルなヒンズー寺院
(写真提供 : Tourism Fiji)



ナンディのクラフトマーケット
(写真提供 : Tourism Fiji)

ヴィセイセイ村

(Viseisei)

ナンディからラウトカに向かうクイーンズ・ロードがこの村を通っている。ナンディ国際空港から北に12km、ラウトカ市街から11kmにある。

臨海のものんびりした村であり、最初のフィジー人の祖先が居住した地として知られ、多くの観光客が訪れている。イロイロ大統領始めフィジーの有力者を多数輩出している。従って村の人々は比較的裕福であり、一族でママヌザのいくつかの島をリゾートとしてリースしている。村には土産物店などもある。

ガーデンオブ スリーピング ジャイアント

(Garden of Sleeping Giant, TEL : 672-2701)

ナンディの北に巨人が仰向けに寝た姿に見える山があり、スリーピングジャイアントと呼ばれ、現地の人から崇拜されている。その山の麓にランを中心とした植物園がある。



写真提供 : Pehicle Tours

サンベトの泥温泉

(Sabeto Mud Pools, Waloko Road, Sabeto)

美しい木々や花々に囲まれた天然の泥温泉、温泉スポット。マッサージも体験できる。



ナンディのホテル

ナンディ国際空港の周辺はフィジー観光の拠点となっており、フィジーでも最も多くホテルが集中している地域で、大型の高級ビーチ・リゾートから、飛行機の乗り継ぎに適したビジネス・ホテル、経済的な長期滞在者用ホテル、バックパッカー用のホテルまで様々なタイプのホテルがある。

〔ナンディ国際空港周辺、ナンディ・タウンにかけて〕

ノホテル・ナンディ

Novotel Nadi

TEL : 672-2000 / FAX : 672-0324

E-Mail : reservations@novotelnadi.com.fj

URL www.accorhotels.com/6287

以前のモキャンボ・ホテルであるが、経営主体が変わりノホテルとなった。ナンディ空港から車で5分程度と近く、トラン

ジットでの利用にも便利。2階建てで、客室128室。緑豊かな広々とした庭に囲まれ、ミニ・ゴルフコースがある。ギフト・ショップ、ツアー・デスク、インターネット等の施設が充実しており、また、客室も機能的で洗練されたデザインでまとめられている。

タノア・インターナショナル・ホテル

Tanoa International Hotel
 TEL : 672-0277 / FAX : 672-0197
 E-Mail : international@tanoahotels.com
 URL <http://www.tanoahotels.com>

ナンディ空港から車で約5分とアクセスが良い。広々としたロビー、ヤシの木が生い茂る中庭とプールなどリゾートの雰囲気がある南国風のホテル。客室はよくメンテナンスされ、設備も良く、フィットネス・センターは人気が高い。

メルキュール・ナンディ

Mercure Nadi
 TEL : 672-2255 / FAX : 672-0187
 E-Mail : reservations@mercurenadi.com.fj
 URL <http://www.accorhotels.com>

ナンディ空港とナンディ・タウンをつなぐクイーンズ・ロード沿いのほぼ中間のマーティンタールに位置し、どちらへも車で約10分程度の距離にある。周辺には地元の人々にも人気のレストランやカフェが多くあり、食事やショッピングにも便利。客室はシンプルながら全体的に南国を感じさせるデザインとなっている。

トカトカ・リゾート・ホテル

Tokatoka Resort Hotel
 TEL : 672-0222 / FAX : 672-0400
 E-Mail : res.tokatoka@warwickhotels.com
 URL <https://warwickhotels.com/tokatoka-resort/>

フィジー語で家族という意味の名前を持つトカトカ・リゾート・ホテル。広々とした敷地内に緑豊かな庭と木をふんだんに使ったインテリアは南国の雰囲気をも十分に感じさせる。プールにある岩窟をイメージしたウォーター・スライダーはファミリー・ゲストに大人気。庶民的な、気取りのないリゾート・ホテル。

フィジーゲートウェイ

Fiji Gateway
 TEL : 673-4755 / FAX : 672-0620
 E-Mail : reserve@fijigateway.com
 URL <https://www.fijigateway.com/>

ナンディ国際空港正門の真正面にある空港から最も近いホテルである。コロニアル風の内装で、手入れの行き届いた庭が広がる落ち着いた雰囲気のリゾート・ホテル。空港のトランジット・ホテルとしても便利。

タノア・スカイロッジホテル

Tanoa Skylodge Hotel
 TEL : 672-2200 / FAX : 672-4330
 E-Mail : skylodge@tanoahotels.com
 URL <https://www.tanoaskylodge.com/>

タノア・スカイロッジホテルは、空港より車で約3分と便利な場所にある。11エーカーある広大な緑の庭に囲まれ、トロピカル風の雰囲気にあふれている。一歩外に出

れば、ラウトカまたはナンディ・タウン行きのバス停がある。

〔デナラウ・アイランド〕

ウェスティン・デナラウ・アイランド・リゾート&スパ

The Westin Denarau Island Resort & Spa Fiji
TEL : 675-0000 / FAX : 675-0259
E-Mail : fiji.denarau@westin.com
URL <https://www.marriott.com/hotels/travel/nanwi-the-westin-denarau-island-resort-and-spa-fiji/?scid=bb1a189a-fec3-4d19-a255-54ba596febe2>

ナンディ空港より車で約20分のデナラウ島のトロピカル・ビーチ・フロントの約12ヘクタールの敷地に広がる高級リゾートである。フィジーの豊かな伝統文化を取り入れた繊細でスタイリッシュなデザインと島の美しさを反映した落ち着いた雰囲気のリゾート。フィジーで最大級のスパは人気が高い。

シェラトン・フィジー・リゾート

Sheraton Fiji Resort
TEL : 675-0777 / FAX : 675-0389
E-Mail : sheratondenarau@sheraton.com
URL <https://www.marriott.com/hotels/travel/nansi-sheraton-fiji-resort/?scid=bb1a189a-fec3-4d19-a255-54ba596febe2>

デナラウ・アイランドにあるスターウッド系の3つの豪華リゾートの一つ。ゴルフコース、ウェディング・チャペルなどがあり、設備の充実度はフィジー国内で群を抜いている。開放的で、トロピカル風のゆったりした雰囲気にあふれる。

ラディソンブルーリゾートフィジー デナラウアイランド

Radisson Blu Resort Fiji Denarau Island
TEL : 675-6677 / FAX : 675-6655
E-Mail : reservations@radissonfiji.com
URL https://www.radissonblu.com/en/resort-fiji?s_cid=os.apac-FJ-blu-FIJDEN-gmb

敷地の中央に大きなラグーンプールがある。これを囲んで、レストランやゲストルーム、スパが配されている。水しぶきをあげる滝を配したオーキッド・ラウンジも現実を忘れさせる憩いのひと時を約束してくれる。デナラウの他のリゾートとはシャトルバスで結ばれている。

ヒルトン フィジー ビーチリゾート&スパ

Hilton Fiji Beach Resort and Spa
TEL : 675-6800 / FAX : 675-6801
E-Mail : fijibeachresort.reservations@hilton.com
URL https://www3.hilton.com/en/hotels/fiji/hilton-fiji-beach-resort-and-spa-NANHIHI/index.html?WT.mc_id=zELWAKN0APAC1HI2DMH3LocalSearch4DGGenericx6NANHIHI

2006年オープン。5つのプールとマmanaヌザ湾約1.5キロのプライベート・ビーチに面している。ビーチに沿って美しいビラが立ち並んでいる。部屋の中の間仕切りを開けると海を見ながらバスタイムを楽しめる。すべてにおいてラグジュアリーを追求している。

シェラトン・デナラウ・ヴィラ

Sheraton Denarau Villas

TEL : 675-0777 / FAX : 675-0818

E-Mail : sheratondenarau@sheraton.com

URL <https://www.marriott.co.jp/hotels/travel/nands-sheraton-denarau-villas/>

ナンディー空港より車で約20分のデナラウ島の青空の下に建ち並ぶ白壁のヴィラ。周りをトロピカルな雰囲気の広々とした庭に囲まれた高級リゾートで、客室も伝統的なスタイルの部屋、1、2、3ベッドルームのヴィラがある。

ザ・テラス・デナラウ・アイランド・フィジー

The Terraces Denarau Islands Fiji

TEL : 675-0557 / FAX : 657-0899

E-Mail : reservations@theterracesfiji.com

URL <https://theterracesfiji.com/>

比較的小規模なホテル・タイプのリゾート。目の前に「チャンピオンシップ・デナラウ・ゴルフ・コース」があり、ゴルフ好きには絶好のロケーションとなっている。バーベキュー・エリアなどもあり家族連れでも楽しめる。

ソフィテル・フィジー・リゾート&スパ

Softel Fiji Resort & Spa

TEL : 675-1111 / FAX : 675-7777

E-Mail reservations@softelfiji.com.fj

URL <http://www.softel-fiji.com/>

2005年12月にオープンした高級リゾート。マリーナの近くに位置しているので、眺望は抜群。設備の整った296室の客室全てが海岸に面している。

〔ヤサワ諸島、マmana諸島〕

ナンディーからラウトカにかけての沖合には、小さな島が多数あり、離島リゾートとして開発されている。ビチレブ島より船で約1～2時間程度の距離であり、美しい海と砂浜を楽しむことから人気が高い。ほとんどが1島1リゾートとなっている。

マナ・アイランド・リゾート&スパ

Mana Island Resort & Spa

TEL : 665-0423 / FAX : 665-0788

E-Mail : info@manafiji.ibookpacific.com

URL <http://manafiji.com>

フィジーの離島リゾートの中で最も規模が大きく充実した設備で知られている。島までは高速船でデナラウマリーナから1時間30分。他に飛行機や水上飛行機、ウォータータクシーの利用も可能。客室は全160室でフィジアンスタイルのブレヤホテルタイプなどがある。マリンスポーツの充実度が郡を抜いており、日本人スタッフ及び日本人ダイビングインストラクターがいる。



写真提供 : Tourism Fiji

ダブル ツリー リゾート バイ ヒルトン ホテル フィジー ソナイスリ アイランド

Double Tree Resort by Hilton Hotel Fiji-Sonaisali Island

TEL : 670-6011 / FAX : 670-6092

E-Mail : info@sonaisali.com

URL <http://www.sonaisali.com>

ビチレブ島から300mの沖合に浮かぶ小島のリゾート。ナンディ・タウンへも車で20分という便利なロケーションである。離島リゾートとナンディ・タウンの両方の雰囲気を楽しめる。42ヘクタールの敷地に120室と贅沢な作り。

マスケット・コーブ・アイランド・リゾート

Musket Cove Island Resort

TEL : 666-2215 / FAX : 666-8055

E-Mail : reservations@musketcovefiji.com

URL <http://www.musketcovefiji.com/>

マロロ・ライライ島にあり、同島の北側半分を占めている。ヨット・マリーナを有していることから、世界のヨットマンによく利用される人気リゾート。客室は広々として芝生に点在するフィジー式のブレで、キッチンが付いた長期滞在者向けのブレもある。デナラウ・マリーナより高速船で約50分。

ヤサワ・アイランド・リゾート&スパ

Yasawa Island Resort and Spa

TEL : 672-2266 / FAX : 672-4456

E-Mail : reservations@yasawa.com

URL <http://www.yasawa.com>

フィジーを代表する高級リゾートの1つ。ヤサワ諸島の最北端に位置するヤサワ

島にあり、秘境と呼ばれるにふさわしい大自然が残されている。アクティビティも豊富で、豪華なリゾート・ライフが楽しめる。客室のブレは天井が高く、開放的な雰囲気。食事の評判の高さはフィジーでも指折りである。

キャストウェイ・アイランド・リゾート

Castaway Island Resort

TEL : 666-1233 / FAX : 666-5753

E-Mail : enquiries@castawayfiji.com.fj

URL <http://www.castawayfiji.com>

お椀をかぶせたような緑の小島で、それを囲む砂浜とエメラルド色の珊瑚礁に囲まれ、実にフォトジェニックな島と言われている。フィジーでも老舗的なリゾートであるが、カジュアルでリラックスできるムードから、欧米人を中心に人気が高い。デナラウ・マリーナより船で約1時間45分。

トレジャー・アイランド・リゾート

Treasure Island Resort

TEL : 666-0380 / FAX : 666-6955

E-Mail : reservations@treasure.com.fj

URL <https://www.treasureisland-fiji.com/>

あこがれの南の島のイメージがそのまま実現したような雰囲気がある。1周徒歩で30分ほどの小さな島の周囲は全て真っ白な砂浜となっている。青い海を望むチャペルがあり、結婚式も行っている。各種アクティビティも豊富で、デナラウ・マリーナより船で約45分。

ビーチカマー・アイランド・リゾート

Beachcomber Island Resort

TEL : 666-1500 / FAX : 666-4496

E-Mail : res@beachcomberfiji.com.fj

URL <http://www.beachcomberfiji.com>

フィジーの離島リゾートの中でも、最もリゾートらしいといわれている1周約15分の小さな島。客室は若者に人気のドミトリー（相部屋）とロッジ、ブレの三種類ある。ショーやゲーム等老若男女が楽しめる催しも多い。デナラウ・マリーナより船で約30分。

マタマノア・アイランド・リゾート

Matamanoa Island Resort

TEL : 672-3620 / FAX : 672-0282

E-Mail : reservations@matamanoa.com

URL <http://www.matamanoa.com>

マタマノア島はマヌザ諸島の中で最も本島から離れた島の一つ。マナ島のさらに奥にあり、日帰りツアーを受け付けていないため常に静けさを保っている。また、12歳以下の子供も受け入れていないため、落ち着いた大人の雰囲気がある。デナラウ・マリーナから船でマナ島経由約2時間。

トコリキ・アイランド・リゾート

Tokoriki Island Resort

TEL : 672-5926 / FAX : 672-5928

E-Mail : reservations@tokoriki.com

URL <https://tokoriki.com/>

マヌザ諸島の中で最もフィジー本土から遠い位置にある。そのため海は澄んで、青く輝いている。デナラウ・マリーナから高速船で約2時間半。

ボモ・アイランド・リゾート

Vomo Island Resort

TEL : 666-7955 / FAX : 666-7997

E-Mail : res@vomo.com.fj

URL <http://www.vomofiji.com>

ナンディ地区からヘリコプターで約15分の三角形をしたボモ島。広い敷地に30棟の客室という贅沢なリゾート。室内は広々としたリビングとベッドルームに分かれ、テラスも付いている。極上のバカンスが楽しめるリゾート。

ナンディのレストラン

旅行者の多くは宿泊しているリゾートで食事を取るケースが多いが、ナンディの町にはリゾートやホテルのレストランのほかにも、インド料理や中華料理を中心に旅行者に人気のレストランがいくつかある。地元の人に混じってダウンタウンでのグルメを楽しむのも良い思い出になる。

ナンディには日本レストランが2軒あり、日本人だけではなく欧米にも人気がある。

カルドス・チャグリル

(Cardo's Chargrill, TEL : 331-4330)

市街地のほぼ中央、エア・パシフィック航空を海側に入った左手にあるステーキ中心のレストラン。窓も大きく眺めの良いアメリカン・スタイルのレストラン。料金は安くないが、味が良いと評判の店。

大黒レストラン

(Daikoku Restaurant, TEL : 670-3622)

昨年、ナンディ・タウンから現在の、空港とダウンタウンの中間のマーティンタールに移転した本格的日本食レストラン。2階の鉄板焼きと1階では寿司をメインに一品料理も色々味わえる。営業日は月曜～土曜。営業時間は昼食12:00-14:00、夕食が18:00-21:30。夕食は要予約。

マハラジャ

(Maharaja, TEL : 672-2962)

ナンディ国際空港の近く、メラネシアン・ホテル側にあるインド料理の店。地元の人にも人気がある。営業時間は日曜日を除く10:00～14:00、18:00～22:00。

ボーハイ・レストラン

(Bohai Restaurant, TEL : 670-0178)

ナンディで一番大きな中華レストラン。リーズナブルな値段で市民のみならず旅行者にも大人気。営業時間は毎日9:00～22:00。

ホンシェン

(HONG SHENG Seafood Restaurant, TEL : 670-7036)

ナンディタウン内にある中華レストラン。数ある中華料理屋さんの中でも人気のレストラン。シーフードを使ったメニューが多く、値段もリーズナブルで種類も豊富。

コーナークフェ

(Corner Cafe, TEL : 670-3131)

朝食、昼食、デザートを用意したカフェ。フレッシュジュースが楽しめる。月～土8:00-17:00営業。

ママズ・ピザ・イン

(Mamals Pizza Inn, TEL : 670-0221)

ナンディタウンの入り口近くで、以前の大黒レストランの近くにある手作りピザとパスタの店。イギリス人ファミリーの経営で、エアコンがきいており、旅行者で常に混んでいる。料金はF\$13.00～22.00。営業時間は通常9:00～23:00。

シタール

(SITAR, TEL : 672-7722)

マーティンタール地区にある、大きな2階建てのレストラン。

本格的なインド料理やタイ料理等のエスニック料理が中心。オープンエアテーブルもあり、夜にはライブバンドが入り、生ビールが飲みバーとしても楽しめる。

ツール プレース

(Tu's Place, TEL : 672-2110)

マーティンタール地区にあるフィジー料理が食べられるレストラン。

一休

(Ikkyu Japanese Restaurant, TEL : 670-2722)

タノアインターナショナルホテル内にあ

る和食レストラン。居酒屋風メニューも取りそろえ、小上がりもあり「ほっと一息」できる。開店時間は月曜日から土曜日。ランチは11:30~2:00、ディナーは6:00~9:30。日曜日はディナーのみで6:00~9:30。

バウンティレストラン

(Bounty Restaurant, TEL : 672-0840)

ビールのつまみからステーキ&カレーなど豊富なメニューをそろえている。

ブラチーノ・カフェ

(Bulaccino Café, TEL : 672-8638)

ラテ・カプチーノやスムージーとともにペイストリーも楽しめる店。

カフェ・オー・フィジー

(Café O Fiji, TEL : 777-0012)

おしゃれな店内にはスムージーやコーヒ、ケーキやマフィンなどを取りそろえている。

〔デナラウマリーナショッピングセンターにあるレストラン〕

インディゴ

(INDIGO Indian & Asian restaurant & Bar, TEL : 675-0026)

ポートデナラウ内にある本格インド&アジア料理レストラン。本場のインド料理が楽しめる。

ボーンフィッシュ

(BONEFISH, TEL : 675-0197)

ポートデナラウ内にあるおしゃれなシーフードレストラン。港を眺められる食事が楽しめる。

メニューは新鮮なシーフード使った料理が多く、前菜からメイン、デザートまで豊富にそろっている。

ラウトカ

ラウトカは首都スバに次ぐフィジー第2の都市で、人口約52,500人、西部地区の行政の中心である。メイン・ストリートのビトンゴ・パレードには南国の美しさを象徴するダイオウヤシの並木があり、ナンディに比べて落ち着いた雰囲気を好む観光客は、ここからリゾート・アイランズやサワ諸島へ向かう。観光客相手の土産物店も数多いが、ナンディに比べると物価も安い。

経済面では、1903年に開始されたサトウキビの精製工場がラウトカの発展に大きく寄与してきた。町の中にはサトウキビの運搬用線路があり、6月から11月の収穫期には小さなトロッコ機関車でサトウキビを精製工場に運び込む。年の後半11月半ばまで工場は休む間もなく生産を続けており、ラウトカ港には積荷を待つ大型貨物船が停泊している。もう一つの主要な産業はヤシの製材工場である。産業の盛んなラウトカは、工業地区が町の西側にあり、商業地区は町の北側でその中心にはマーケットがある。

ラウトカのホテル

ウォーター・フロント・ホテル

Water Front Hotel

TEL : 666-4777 / FAX : 666-5870

E-Mail : waterfront@tanoahotels.com.fj

URL <https://www.tanoawaterfront.com/>

ラウトカ海岸に面し、使い勝手の良いホテル。モダンなラウンジ、バーがあり特に、港を臨む高級レストランFins Restaurantは人気が高い。

ラウトカのレストラン

ブルージンジャーカフェ

(Blue Ginger Café & Deli, TEL : 907-6553)

ラウトカシティのエリザベス・スクエアにある地中海、ヨーロッパ料理とコーヒーの店。月～土 8 : 00～18 : 00 営業。

フレンド・フィジー・スタイル

(Friend Fiji Style, TEL : 666-3181)

FRIENDはThe Foundation for Rural Integrated Enterprises & Developmentの略で、フィジーの貧困削減のために設立されたNGO。インド料理などを提供する



店内は広々と開放的な雰囲気。

オーガニックレストランでは、ローカル&オーガニックにこだわり生産されたジャムやスパイス、ドライフルーツなども購入できる。

コーラル・コーストとパシフィック・ハーバー

コーラル・コースト

ナンディから南東にクイーンズロードを1時間くらい車で走っていくと約90km間海岸線沿いにリゾートが点在するところが、コーラルコーストと呼ばれる。

●モミベイ (Momi Bay)

ナンディ市街から約40kmにあるモミベイには、ナブラ水路を見下ろす高台にモミ砲台が太平洋戦争の戦跡として保存されている。フィジーはアメリカ、オーストラリア、ニュージーランドと共に、この丘に砲台を築いて日本軍に備えていた。ここにはマリオットホテルが2017年にオープンした。

シンガトカとその周辺

シンガトカはナンディとスバの間にある唯一の街で、約10,000人が生活する。ラウトカを出発した長距離バスがナンディを通過して約92km、スバまで残り140kmの位置にあり、クイーンズ・ロードを走る全ての長距離バスがこの町で休息する。町の中心はクイーンズ・ロードからフィジー

で2番目に大きいシンガトカ川に沿って200mほど北に入ったマーケット。直ぐ近くには、バス・ターミナルがある。マーケットの周りには、大衆食堂や雑貨店が軒を連ね、少し離れて銀行や観光の町を感じさせる土産物店や免税品店がある。

ナタンドラ・ビーチ

(Natandola Beach)

モミベイとシンガトカの中間に位置するナタンドラ・ビーチは真っ白い砂浜が広がり、ピチレブ島で最も長いビーチ。ナンディやコーラル・コーストのホテルから日帰り



写真提供：Pehicle Tours



ツアーがある。遠浅なのでシュノーケル等は満潮前後2時間がお勧め。

シンガトカ砂丘

(Singatoka Sand Dunes, TEL : 652-0243)

シンガトカ川の河口に広がる銀色をした砂丘。河口近くにあるクルクル村(Kulukulu)の先から海沿いに長さ約5kmにわたって続く砂丘で、幅は広いところで約1km、西の端は海面から50mほどの高さにもなる。砂丘入り口に管理事務所があり、ここで10ドルを支払う。この砂丘の一角からポリネシア人の祖先と言われるラピタ人の土器が発見されている。入場料はF\$10.00で、毎日8:00~17:00営業。車でナンディからシンガトカに約50分走ったところに砂丘管理事務所が右手に見える。



写真提供 : Tourism Fiji

タブニの砦

(Tavuni Hill Fort, TEL : 987-5959)

史跡として修復されたタブニの砦は、シンガトカ川を約4km遡ったNaroroを過ぎたところにある。砦は周囲が見渡せる高台にあり、シンガトカ川に面して高さ90m

の石灰岩の自然の壁に守られている。伝説によれば18世紀の中頃、トンガの首長が一族の争いを嫌って数人の家人と共にトンガを捨て、カヌーでコロトンゴ村に辿り着き、フィジー人を妻に迎えてタブニに住んだという。このような砦がフィジーのあちこちに存在したが、現在はほとんど残っていない。

クラ・エコ・パーク

(Kula Eco Park, TEL : 650-0505)

コロトンゴ村にある、以前バードパークと呼ばれていた公園で、現在は野生動物の保護を目的としている。絶滅が心配されるフィジーのハヤブサの飼育なども行われている。開園時間は10:00から16:30で、入園料は大人がF\$50.00、子供がF\$25.00。スプラッシュウォータースライドやスプラッシュプールなど別料金でアクティビティも楽しめる。

パシフィック・ハーバー

パシフィック・ハーバーは、コロレブ村を過ぎてスバに向かうコーラル・コーストの東はずれ、シンガトカから約90km、スバから約50kmにあるリゾート地。ビチレブ島の東側への入り口で、ナンディなど西側に比べて山の緑が濃く密集して、雨の降る日が多いことをうかがわせる。パシフィック・ハーバーの名前から大型ヨットなどが寄港する港を思い浮かべるが、ここにはかつてフィジーで一番と言われたゴル

フコースや文化・芸能を紹介するアーツ・ビレッジ、高級大型リゾート・ホテルのザ・パール・サウス・パシフィック・リゾート他数軒のホテルがある。パシフィック・ハーバーの沖合いには珊瑚に囲まれたベンガラグーンがあり、ダイビングで非常に有名なポイントだ。(リークとシャークダイビングが日替わりでできる。)ベンガラグーンを中心は、36km²のベンガ島 (Beqa Island)。起伏の多い火山島には8つの村があり、西側にはマリーン・ベイ・リゾート、東側にはララチ・リゾートがある。ベンガ島の西9kmにあるヤヌサ島は美しい白砂のビーチを持ち、すぐ近くにはフィジー有数のサーフィン・スポットや50m級のウォール・ダイビングで知られるフリゲート・パッセージがある。

コーラル・コースト、パシフィック・ハーバーのホテル

シャングリラズ・フィジアン・リゾート

Shangri-La's Fijian Resort
 TEL : 652-0155 / FAX : 650-0402
 E-Mail : fiji@shangri-la.com
 URL <http://www.shangri-la.com/jp/>

ナンディ方面からシガトカに向け車で約50分、ラグーンに囲まれた島ヤヌザ島、この島全体がフィジアン・リゾートである。美しい海と白砂のビーチは宿泊客だけのもの。客室総数は436室と大規模であり、かつ設備の充実度はフィジーでも群を抜いている。チャペル、スパ、5つのレストラン、3つのバー・カフェがある。9ホールのゴルフ場、メケ・ショー (現地人の伝統舞踊

と歌) 等のアトラクションが豊富。

アウトリガー・オン・ザ・ラグーン

Outrigger on the Lagoon
 TEL : 650-0044 / FAX : 652-0074
 URL <http://www.outrigger.com>

伝統的なフィジーの村にいるような雰囲気味が味わえると言われている広々としたリゾート・ホテル。伝統的なフィジー・スタイルのブレが点在し、薄暮にライトアップされた敷地と紫色に染まる海を見渡すロビーからの景観は幻想的。客室に備えられたハンモックでゆっくり過ごす客も多い。ホテルの裏側にある高い丘には、スパ、チャペル、バーがあり、水平線に広がるラグーンを一望できる。ナンディ空港より車で約1時間15分。

ザ・ワーウィック・フィジー&スパ

The Warwick Fiji & Spa
 TEL : 653-0555 / FAX : 653-0010
 E-Mail : info.fiji@warwickhotels.com
 URL <http://www.warwickfiji.com>

遠浅のラグーンに囲まれたビチレブ島でも有数の美しさを誇るコロレブ・ビーチという絶好の場所にある。各室にバルコニーがあり、時間と共に変わる海や空の景色を堪能できる。沖合にはベンガ島などの人気ダイビング・ポイントがあり、フィジーの海の魅力を存分に楽しめる。ナンディ空港から車で約1時間45分。

ザ・パール・サウス・パシフィック

The Pearl South Pacific

TEL : 345-0022 / FAX : 345-0262

E-Mail : info@thepearlsouthpacific.com

URL <http://www.thepearlsouthpacific.com>

リゾート・エリアであるパシフィック・ハーバーの顔ともいえる大型リゾート・ホテル(旧パシフィック・ハーバー・インターナショナル・ホテル)。2005年83室の豪華リゾートとしてリニューアル・オープン。沖合に浮かぶベンガ島周辺には有数のダイビング・ポイントがあり、毎年ゲーム・フィッシングの世界大会も開かれる。内陸側にはホテルと同系列の国際級ゴルフコースもある。ナンディ空港より車で約2時間半。

フィジーマリオットリゾートモミベイ

FIJI MARRIOTT RESORT MOMI BAY

TEL : +679 6707000 / FAX : +679 6709999

E-MAIL : momibay.reservations@marriott.com

URL www.marriott.com

2017年2月にオープンしたばかりの、フィジー初のマリオットホテル。ナンディ国際空港から車で45分、美しいモミベイにできたラグジュアリーホテルは、本島で唯一の水上コテージがある。その他広々とした部屋のヴィラタイプ、ホテルタイプの部屋など様々な層のタイプの方が利用可能。近くには第二次世界大戦中に連合軍が建設した砲台がある。

インターコンチネンタルフィジーゴルフリゾート&スパ

Intercontinental Fiji Golf Resort & Spa

TEL : +679 6733300 / FAX : +679 6733499

E-MAIL : enquiries.fiji@ihg.com

URL www.intercontinental.com/fiji

ビチレブ本島で一番美しいビーチと人気のある「ナタンドラ」に2009年6月にオープンした高級リゾートホテル。椰子の木が茂る緑の庭と白い砂浜、そして青い海の奥に立つ波しぶきを見ていると本島にいながらまるで離島のリゾートにいる様な感覚に。5か所のレストラン&バー、4つのプール、スパ、海の景色と融合した18ホールのゴルフコース、キッズクラブなどの施設も充実している。敷地内をサトウキビ列車が走り抜ける光景もフィジーらしくてユニーク。曜日毎に変わる様々なアクティビティもあり便利。

コーラル・コースト、パシフィック・ハーバーの観光スポット

アーツ・ビレッジ

Arts Village

TEL : 345-0095

URL <http://www.artsvillage.com.fj/>

セントラ・リゾートからスパ方面へ約1km、左手にセンターが見える。フィジーの歴史や伝統文化、芸能など分かりやすく説明してある。敷地内には小島が造られ水路を双胴のカヌーで回る約1時間のツアーは子供に人気がある。開園日は火曜日と木曜日の9:30~16:30で、火曜日には「メケショー」、木曜日には「火渡りの儀式」が、それぞれF\$20.00で見られる。見学ツアー

は火曜日と木曜日にあり、F\$50.00。例年
1月下旬まで休業する。



写真提供：Tourism Fiji

首都スバとその周辺

ナンディが観光の中心であるのに対し、首都スバは行政の中心であり経済と教育の中心。人口86,178人、周囲の市町村を含めるとフィジーの全人口の約40%が居住する南太平洋最大の都市で、太平洋諸島フォーラムの事務局や南太平洋大学の本部、各国の大使館などが集中している。スバはビチレブ島の南東に突き出た小さな半島に位置し、セントラル・スバと呼ばれる繁華街は半島の西側中央にある。半島の幅は約3 km、海に突き出ている距離は約5 kmで、半島全体がスバ市内となっている。セントラル・スバは人の流れが絶えることなく、コロナル風の建物と近代的なビルが混在し、教会やモスク、寺院も多い。



スバのカトリック大聖堂（写真提供：Tourism Fiji）

スバの歴史

1874年10月、フィジーの国王ザコンバウは英国にフィジーを譲渡し、正式に英国の植民地となった。首都をビチレブ島の東に位置するオバラウ島のレブカに定め、96年間に及ぶ植民地の時代が始まった。

1870年代、スバでは40人のオーストラ

リア人がメルボルンから移住し、サトウキビの栽培を始めた。しかし、この試みは結果的に失敗に終わり、移住者たちは多額の負債を抱え込むことになった。この負債を返済するため、メルボルンの2人の商人がフィジー政府にスバへの首都移転を働きかけた。首都レブカは、その土地の狭さから



人口の増加に耐えられなくなっていたが、スバには十分に広い土地が確保でき、西側が波の静かな入り江で天然の良港を形作っているなど、フィジーの新しい首都とする理由が十分に整っていた。

1882年、フィジー政府は公式にスバを新しい首都にすることを決定した。

スバとその周辺

首都スバは、半島の西側中央部に政府庁舎やマーケット、バス・ターミナル、航空会社、銀行が集まるセントラル・スバと呼ばれる中心街がある。中心街は南北に約1.5km、東西に0.5kmであり、2～3時間もあればくまなく歩いて回ることができる。かつては、コロナアル風の落ち着いた町であったが、現在は大都市的雰囲気が醸し出され、エスカレーター付きのモダンなショッピング・センターやインターネットカフェも出現し、高層ビルも次々と完成、数年前とは様子が一変している。

中心街を南から北に走るピクトリア・パレードはアルバート公園から始まり、トムソン・ストリート、レンウィック・ロードに別れる。西側の海沿いをスティンソン・パレードが通っている。ピクトリア・パレードをアルバート公園から南に向かうとクインズ・エリザベス・ドライブと名前を変え、半島の先端スバ・ポイントを東に回って国立競技場まで続く。途中には旧行政府や議事堂などがある。

中心街の北側にはバス・ターミナルがあ

り、北に200mほど進むとロータリーがあり、直進するとクインズ・ロードを經由してナンディへ、右に回るエリザベス・ロードからキングス・ロードを經由してナウソリ空港へと続く。東側の高台には高級住宅地があり、さらに約1km先には南太平洋大学の広大なキャンパスがある。

●セントラルスバを歩く

タウンマップを見ながらスバの中心街を歩いてみるのも面白い。

バス・ターミナルとスバ最大の野菜マーケットから南に100m歩くと、左手にタブーシティーという百貨店があり、さらに歩くと正面にビレッジ6という映画館があり、その向かいにあるドミニオン・ハウス（Dominion House）というビルの2階に在フィジー日本国大使館がある。（TEL：330-4633）ドミニオンハウスのから東に100m歩くとMHCCという3階建てのショッピングモールがある。

ドミニオンハウスから200mほど海側に歩くと中央郵便局がある。（エドワード・ストリート）ここからトムソン・ストリートを北に向かうと橋があり、ナブカロウ・クリーク（Nabukalou Creek）が流れている。橋を渡ると直ぐ右にカミング・ストリート、さらに50mほど先にはブラウズ・マーク・ストリートがあり、この2本の道は150～200mでレンウィック・ロードに突き当たる。このあたりはインド人の経営する免税店や中華レストラン、古い商店が並んでいる。



スバの映画館 (写真提供: Pehicle Tours)

ブラウズ・マーク・ストリートの手前を左に折れるとアッシャー・ストリートで、ここにはフィジー最大のスバ市営マーケットなどがあり、北側には近・長距離のバス・ターミナルがある。

観光局の南側には中央郵便局がある。トムソン・ストリートを南に行くと、フィジー最大の民芸品チェーン店のジャックス・ハンディクラフトやブラウズ免税品店、ウェストパック銀行、ANZ銀行、フィジーエアウェイズなどがある変則的な4つ角に出る。直進するのがビクトリア・パレードで、左に戻る道がレインウィック・ロード、海に通じるのがセントラル・ストリートだ。レインウィック・ロードを右に曲がると



1902年に建てられたローマン・カトリック大聖堂（Roman Catholic Cathedral）がある。

ビクトリア・パレードを南に進むと、フィジーの土地を守るために貢献したラツ・スクナ（Ratu Sukuna）を記念して造られたスクナ公園が右手にある。公園から南に約100m歩くと左に折れるマッカーサー・ストリートがあり、直ぐ右手にフィジー政府直営の民芸品センターがある。フィジーを代表する民芸品職人による作品が多く、一度は訪れてみたい。ビクトリア・パレードの右手には1904年に建てられた旧市庁舎とスバ図書館があり、旧市庁舎にはレストランなどが入っている。その間を海側に入るとオリンピック・プールがある。50mの本格的な競技用プールで観光客も利用できる。

ここを過ぎて300mほど行くとアルバート公園の手前のスバの政府庁舎がある。夜間にはライトアップされ美しく、1939年に建てられたものだが、見た目には100年以上経過しているように映る。公園から眺める時計塔がスバの象徴となっている。この公園でビクトリア・パレードがクイーン・エリザベス・ドライブと名前を変える。新しい道の始まりは、熱帯の花々が競って咲き乱れる市民の憩いの場サーストン・ガーデンがあり、その東側にフィジー博物館がある。

南太平洋観光協会

（South Pacific Tourism Organisation, TEL : 330-4177）

ビクトリア・パレードとロータス・ストリート（Lotus St.）の角にあるFNPFプラザ3階にある。フィジーだけでなく南太平洋地域の観光情報が入手できる。

URL : <http://www.spto.org>

フィジー博物館

（Fiji Museum, TEL : 331-5944）

小さな博物館だが、多彩な展示物から感じられるフィジーの歴史のダイナミクスさは、見る人を魅了せずにはおかない。先住民の出自を探る手がかりとなる陶器類や、ドゥルアと呼ばれる双胴船、人々の習慣を伝える生活用品、武器の展示など幅広く整理されている。入り口に展示された双胴船やカヌーを見ると、ヨーロッパの大航海時代から遥か昔、紀元前16～12世紀に広大な太平洋をドゥルアを駆って植民していった人々の勇敢さ、好奇心には圧倒されるものがある。ここに展示されている双胴



博物館横の庭園

船はラツ・マラ大統領の祖父が所持していたものである。先史時代だけでなく近・現代の展示品も多々あり、現在の多種多様な文化を生み出した移民の背景なども興味深い。日本政府が文化無償援助で供与した陳列ケース、視聴覚機器が多数設置されているのが目につく。

アルバートパーク

(Albert Park)

行政府の南に広がる芝生が美しい公園で、その名前は英国のビクトリア女王の夫君の名を冠して付けられたと言う。平日は人影がまばらだが土曜日の午後にはクリケットやラグビーを楽しむ人々で大変な賑わいとなる。2018-2019年のICC(インターナショナルクリケットカウンセル)のアジア、太平洋の世界大会の競技場として利用されている。



フィジー議会

(Parliament of Fiji)

1992年、フィジー議会は政府庁舎から南に約1.5kmの現在地に移転した。ここ

には議会のほかに政府機関の建物もあり、それをまとめて議会合同庁舎と呼んでいる。議会は伝統的なフィジーの建築様式を現代風アレンジしたもので一見の価値はある。見学できるのは週日の8:00~13:00と14:00~16:00。

南太平洋大学

(University of the South Pacific)

1968年に設立された南太平洋12カ国のための唯一の総合大学で、19,000人が学んでいる。スバの東にある住宅街を歩いてバスで約15分、面積78ヘクタールの広大な敷地で、東京ドームが30入る計算になる。衛星通信を利用した遠隔教育が導入されており、島嶼国での高等教育普及に貢献している。バヌアツに法学と言語学、サモアに農学専門の分校がある。

ゾロ・イ・スバ森林公園

(Colo-Suva Forest Park, TEL: 332-0211)

スバの北11kmの丘陵地に245ヘクタールの広さを持つゾロ・イ・スバは、ナウソリからも11kmの身近なハイキングコースとして人気の場所だ。この公園は水遊びができる3つの自然のプールと6.5kmの遊歩道、密林を抜ける1kmほどの山道が2本ある。プール脇にはロープを利用して飛び込めるようになっているので、特に子供たちに大人気。プール脇には脱衣所もある。バーベキュー設備とピクニック・テーブルも用意されている。強盗・盗難等の被害も



ゾロ・イ・スバ森林公園 (写真提供: Pehicle Tours)

あるので単独行動は避け、ピクニックで行く場合は、信頼できるハイヤー会社を利用すること。

スバの宿泊施設

首都であることからあくまでもビジネスホテルが中心だが、その中で、スバ湾に面したホリデイ・イン、グランドパシフィックホテル、ノボテル・ラミは唯一リゾートの雰囲気を楽しめるホテルである。

ホリデイ・イン・スバ

Holiday Inn Suva
TEL : 330-1600 / FAX : 330-0251
E-Mail : reservation@holidayinnsuva.com.fj
URL reservations.holidayinnsuva@ihg.com

スバのメイン・ストリート沿いにありながら、周辺は官庁街で静かな環境にある。スバ湾に面したプールを囲んで客室棟が建てられており、一步敷地に入れば、正に都会のオアシスといった風情がある。各国のエグゼクティブが利用するスバ随一のホテル。ナウソリ空港より車で約45-60分。

タノア・プラザ

Tanoa Plaza
TEL : 331-2300 / FAX : 330-1300
E-Mail : plazares@tanoahotels.com
URL www.tanoaplaza.com

スバの町を一望できるロケーションにある。市中心部へのアクセスも良く、ビジネスマンの利用が多い。客室はシンプル、モダンなインテリアで機能的。ナウソリ空港より車で約45-60分。

ノボテル・ラミ

NOVOTEL Suva
E-Mail : reservations@novotelsuva.com.fj

スバの町から西へ車で約20分、ラミ湾に面して建つ。最大500人収容の大型会議場もあり、南国風のリゾート・ホテル。フロアティング・レストランが有名。パブリック・スペースもゆったりしている。ナウソリ空港より車で約60-75分。

グランド・パシフィック・ホテル

Grand Pacific Hotel
TEL : +679 3222000
E-Mail : info@gph.com.fj
URL http://grandpacifichotel.com.fj/

1914年築の建物を忠実に修復したGrand Pacific Hotelは、スバの「グランド・オールド・レディ」として親しまれている。10ドル紙幣の裏の絵柄はグランドパシフィックホテルである。

スバのレストラン

スバの中心街を歩いていると、とにかく

中華料理とインド料理の店が目立ち、特に中華料理は評判の店が数軒ある。

大黒レストラン

(Daikoku Restaurant, TEL : 330-8968)

スバ市立図書館からビクトリア・パレードを少し南にいったところにある、本格的な日本レストラン。特に、鉄板焼きと寿司が人気。夜は混雑しており、予約がないと長時間待たされることもある。営業時間はランチ12:00~14:00、ディナー17:45~22:00。日曜休み。

ソウル・ハウス

(Seoul House, TEL : 331-4233)

サザン・クロス・ホテルの最上階にある韓国料理の店で、韓国からのツアー客が多い。在留邦人の利用も多い。曜日によっては韓国風刺身が食べられる。

昼食：月~金12:00~15:00

夕食：18:00~22:00

ハレ・クリッシュナ

(Hare Krishna, TEL : 331-4154)

プラット・ストリートに入ってカトリック大聖堂の手前にあるインド系の店。2階がベジタリアン・レストランで、1階はアイスクリームが人気のコーヒーショップになっている。

バッド・ドッグ・カフェ

(Bad Dog Café, TEL : 331-2968)

マッカーサー・ストリートとビクトリア・パレードの角にある。エアコンの効いた、軽食とコーヒーの店だがワインやビールもある。特にビールは外国銘柄も多く揃っているのが嬉しい。

ティコス・フローティング・レストラン

(Tiko's Floating Restaurant & Bar, TEL : 331-3626)

ラツ・スクナ公園の岸壁に係留されている船のレストラン。以前ブルーラグーン・クルーズに使用していた船を改造したもの。シーフードが中心だがココンダやダロ料理などフィジー料理もあり、大人数ならば前菜を数種類取り分ければ楽しめる。肉、魚料理はボリュームがある。営業時間は月曜~金曜日はランチとディナー、土曜日はディナーのみ。

マヤ・ダバ

(Maya Dhaba, TEL : 331-0045)

店の雰囲気は西洋風で街中のカレー屋に比べあっさり洗礼された感じのカレーが味わえる。毎日11:00-22:00営業。

エデンビストロ&バー

(Eden Bistro & Bar, 11 Bureta Street | Corner with Maharaj Street, Suva, Viti Levu, Fiji, TEL : +679-3386246)

シーフードを中心とした西洋料理などバラエティに富んだメニューこじんまりした店内でスタッフの対応もいい。

ガバナーズ・レストラン

(Governors Restaurant, TEL : 337-5050)

ガバナーの館をそのままにレストランに、とても趣のある部屋内装でいくつか個室や、ベランダ席もある。フィジーで撮られた映画のポスターや様々なアンティークなものが置いてある。食事もおいしく、ワインも豊富に揃っている。要予約。

MHCC & Tapoo City 内のフードコート

店内のフードコートには、インド、中華、フィジアン、西洋料理のファーストフードからチョイスできる。

アシヤナ・レストラン (カレー)

(Ashiyana, TEL : 331-3000)

濃厚な本格ローカル・カレーレストラン、メニューも種類も豊富。

スバのナイトライフ

トラップス

(Traps Bar, TEL : 331-2922)

スバ市立図書館の近くにあるスバで人気のバーの一つ。カウンター席とテーブル席があり、テーブルは地元の人で賑わっているが、旅行者も気軽に入れる店。

スバのショッピング

スバのみやげ物店や免税品店は政府直営から個人経営のものまで数が多く、店によっては値引きしてくれる。賢い買い物をするためには、他の店を回るなどして値段を調べておきたい。政府直営のクラフト・

センターやフィジー最大の免税品店ブラウズなどは、いずれも定価で販売している。なお、海沿いのスティンソン・パレードにはクリオ&ハンディクラフト・センターがあるが、船が入港している時は値段が高くなるようなので値切って買うのが常識となっている。

ジャックス民芸品店 (Jack's of Fiji)、ブラウズ (Prouds)、タブー (TAPPOO)、MHCCなどの大手の民芸品店や百貨店は一通りおみやげ物がそろえられてある。

バヌア・レブ島



バヌア・レブとは「大きい土地」の意味で、330を超えるフィジー諸島でビチレブ島に次ぐフィジー第2の島。その面積5,538km²はビチレブ島の約半分で、フィジーの全人口約80万人の18%が生活している。

バヌア・レブ島にはランバサとサブサブの2つの町に空港があり、その周辺を除いては、まだ自然がそのまま残されており、人々の多くは素朴な生活を営んでいる。

ランバサとサブサブ

●ランバサ

島の北部中央に位置するランバサは、インド系フィジー人を中心に約28,000人が生活する。バヌア・レブ島の行政の中心であり、100年以上の歴史を持つ砂糖精製業はラウトカに次ぐ生産量を誇っている。

ランバサの町は、東側を蛇行して流れるランバサ川に頭を包まれるような形をしており、中央をナセクラ・ロードが真直ぐに延びている。通りに平行してサトウキビ運

搬鉄道が走っていて、川の向こう1.5kmには砂糖精製工場がある。

川の手前にバス・ターミナルがあり、ここからナセクラ・ロード沿いの長さ700~800mがいわゆるダウントウンと言われる一角になる。左右には銀行や郵便局、航空会社、スーパーマーケット、レストランが並び、日中は人通りが絶えることはない。

●サブサブ

サブサブはランバサと反対の南部中央に位置するバヌア・レブ島の第2の町で人口

3,500人。この町が注目されるようになったのは、町のあちこちから温泉が出たことによる。サブサブからその東に位置するタバウニ島にかけて、海岸線の美しさとダイビング・スポットの豊富さがダイバーを惹きつける。

●ランバサとサブサブへの行き方

国内線航空会社フィジーリンク社がナンディとナウソリ空港から、ノーザンエア社がナウソリ空港から運行している。スバからバスと船を乗り継いで行く方法もある。

タバウニ島

フィジーで3番目に大きなタバウニ島は、ソモソモ海峡を挟んでバヌア・レブ島の東9kmに位置する。別名ガーデン・アイランドと呼ばれる緑の濃い島で、縦が約42km、幅が約10km、19,000人が生活している。

タバウニ島の中心は西側中央より少し北にあるソモソモ村で、この村の首長が伝統的宗教の上ではフィジーで一番偉いという。また、ソモソモ村の南を子午線が通っており、本来の日付け変更線を示す碑と看板が立っていることでも知られている。

タバウニ島は典型的な火山島で、中央に1,000mを越す山が2峰。一つは1,241mのMt. Ulunigalauで、ピチレブ島のMt. Victoria(1,323m)に次ぐフィジー第2の高さを持つ。南東からの卓越風がこの稜線に遮られて島の東側に多量の雨を降らせ、青々と豊かな植物で覆われたフィジーで最

も肥沃な土地を作り出している。19世紀の初めにヨーロッパ人がこの島に進出して大規模な綿花栽培を行ったのも、土地が肥沃で良質の綿花を産出したからであった。綿花の市場価格の暴落によってサトウキビ農園に転換したが、湿気が多いことから失敗に終わっている。その後コブラ農園が主であったが、現在はカバ、タロイモ農産業と観光が主産業となっている。

●タバウニ島への行き方

ナンディからはフィジーリンク、スバからはフィジーリンクとノーザンエアの国内線2社またはスバから船で行く方法がある。FIJI LINK : <https://www.fijiairways.com/en-us/about-fiji-airways/fiji-link/>

●フィジーの花タンギモウジア

幻の花と言われるフィジーのタンギモウジア (Tagimoucia) を見ることができる唯一の場所がタバウニ島にある。島の中央、標高823mにあるタンギモウジア湖の周りには、10月の終わりから1月の終わりにかけて小さな鐘型をした赤い花びらの、中心部が真っ白な花が咲く。この湖には、ソモソモ村より入村の儀式(カバ)を行ってから山に入る。この花にまつわる話しは数多く残されており、村人に話を聞くのも興味深い。

バヌア・レブ島のホテル

グランド・イースタン・ホテル

Grand Eastern Hotel

TEL : 881-1022 / FAX : 881-4011

E-Mail : grandeastern@cjsgroup.com.fj

URL www.hexagonfiji.com/GrandEastern/aboutus.html

リノベーションを終えた全24室の近代的なホテル。ビジネス客も多く、大型コンファレンス・ルームも完備。ランバサ川河岸にあり、遠方の山々の下に広がるサトウキビ畑の景色はすばらしい。バス・ターミナルに近く、交通も便利。

ランバサ・リバービュー・プライベート・ホテル

Labasa Riverview Private Hotel

TEL : 881-1367 / FAX : 881-4337

経済的なホテル。部屋は快適。一部の部屋には台所が付いている。市中心部から徒歩5分と近いが、リラックスした雰囲気が味わえる。

サブサブ・ホットスプリング・ホテル

Savusavu Hotspring Hotel

TEL : 885-0195 / FAX : 885-0430

E-Mail : hotsspringshotel@connect.com.fj

URL <https://www.hotsspringsfiji.com/>

町中心部から遠くない高台にある。客室からサブサブ湾が眺められ、部屋は快適、広々としたデッキのあるプール、バー、レストランも併設。

ダクリゾート

DAKU Resort

TEL : 885-0046 / FAX : 885-0354

E-Mail : reservations@dakuresort.com

静かな環境の下、快適なリゾート。客室はドミトリーからキッチン付きのブレまである。マリーン・スポーツ各種の手配が行える。

オバラウ島とレブカ

ビチレブ島の東、約10kmの洋上に浮かぶオバラウ島は面積101km²を有するフィジー第7の島。起伏の多い火山島で中央部東には海拔626mのMt. Nandelaivalauが尖った先端を見せている。楕円形をした島の東側中央に位置する人口4,000人の町レブカは、かつてフィジーの首都であった。行政上はオバラウ島はその北東にあるココ島、南東にあるガウ島と共にロマイビチ・グループ（あるいはセントラル・グループと呼ばれる）に属している。



経済面では、首都の移転と共に衰退が続いた。1964年、日本の支援を得て町の外れにある埠頭に缶詰工場が建てられ、日本や韓国、台湾の遠洋漁業の貯蔵基地としても利用されるようになった。1989年にオーストラリアの援助を得て工場を含む埠頭の再開発が行われ、現在ではフィジー政府、台湾資本も入った米国系企業となっている。従業員1,000人以上を雇用し、ツナ等の缶詰、冷凍魚、ドッグ・フード等を製造、砂糖、観光、金の採掘に次ぎフィジーの重要な産業になっている。

オバラウ島へは、島の南西にあるブレタ空港とナウソリ空港を結ぶ定期便があり、飛行時間は約15分。西部中央にあるブレサラ港と対岸のナイトビを約1時間で結ぶフェリーもある。空港からレブカへは、ミニバスかタクシーで約1時間。

旧首都としてのレブカ

レブカの港町は2013年6月にユネスコの世界遺産に登録された、フィジー初の世界遺産である。

レブカはフィジー初の銀行、最古の学校、郵便局、初のプライベートクラブ（会員制のクラブ）最古の病院、初の新聞会社（Fiji TIMES）などが生まれた場所でもある。



写真提供：Pehicle Tours



レブカの町は1874年から約8年間、フィジーの首都として英国の総督府が置かれ、首都がスバに移るまで行政の中心地として栄えた。レブカにヨーロッパ人が訪れるようになったのは1800年代の始めで、白檀の貿易商が水と食料を補給するため訪れた。1830年代になると、フィジーの女性と結婚したヨーロッパ人たちが、レブカの首長の保護の下、ナマコやウミガメ、ヤシ油の貿易を行った。その後、約40年にわたってヨーロッパからの入植者が増え続け、貿易の基地として発展を遂げた。19世紀中頃から末にかけて、レブカには3,000人もものヨーロッパ人が居住、1875年には、南太平洋地域では最初のフリーメーソンのロッジが建設された。その当時ホテルの数だけでも52を数えたという。

レブカの小さな町は人で溢れるような状況であったが、海と山に挟まれた地形が影響して町を拡大することができなかった。19世紀の終わりには貿易の一部がすでにスバに移っていたこともあり、政府は1882年、首都のスバ移転を正式に決定した。

●レブカを歩く

レブカの町の建築物の多くは1888年と1905年のハリケーンの直撃で破壊されたが、旧首都の面影を残すいくつかの建築物が残っている。町の外れにある栈橋から南へ10分ほど歩いた海沿いに白い碑がある。1874年に英国の植民地となったことを記すもので、領土引渡しのサインをした場所（Deed of Cession）である。その向かいには、1869年に建てられた旧総督の館と1870年、1970年に建てられたレブカの地方議会がある。

栈橋から北に向かうと、現在のレブカの中心となる。ビーチ・ストリートに沿って北に行くと、1868年に建てられたモーリス・ヘドストロム商会がある。現在はレブカのコミュニティー・センターとなっており、博物館と図書館が併設されている。そ



Cession Site (写真提供：Pehicle Tours)

の先200mには、1858年に建てられたセイクレッド教会がある。現存する最古の建物だ。その裏には1891年に開校し、現在は小学校になっているメリスト女子修道会と警察署（1920年）があり、その西側に1879年、フィジー人のために開設されたレブカ・パブリック・スクールがある。

ビーチ・ストリートをさらに北に行くとトトンガ・クリークがある。手前に小さなホテルが2軒あり、その先に1870年代に建てられたロイヤル・ホテルがある。クリークを渡って左にカーブしている道を進むとタウン・ホール（1898年建築）とオバラウ・クラブ（1904年建築）がある。ビーチ・ストリートをさらに200mほど進むと右手に戦争記念碑が建っている。第1次、第2次世界大戦で亡くなった地元の人々を顕彰するものである。その先には、1869年に建てられたレブカ・メソジスト教会がある。

レブカのホテル

ザ・ロイヤル・ホテル

The Royal Hotel
TEL : 344-0024 / FAX : 344-0174
E-Mail : royal@connect.com.fj
URL <http://www.royallevuka.com>

伝統あるフィジー最古のホテル。古きよき時代が偲ばれるホテルで、室内は掃除が行き届いて清潔だ。15の客室の他にコテージとドミトリーがある。ホテルのバーとビリヤードはゲストのみが利用できる。

オバラウ・ホリデイ・リゾート

Ovalau Holiday Resort
TEL : 344-0329
E-Mail : ohrfiji@gmail.com
URL <https://resort.owlfiji.com/>

レブカの町から北に3～4km離れた小さなリゾート。湾に面していて、小さいながらビーチもあり、シュノーケリングやカヤックが楽しめる。リゾートのオーナー族は、町でカフェ・レブカを運営している。

レブカ・ホームステイ

Levuka Homestay
TEL : 344-0777 / FAX : 344-0777
E-Mail : levukahomestay@connect.com.fj
URL <http://www.levukahomestay.com>

客室数4室（内3室はエアコン付き）のこじんまりした快適なホテル。建物は新しく、最上階にある共有スペースからの海の眺めはすばらしい。

関係先リスト

観光コンタクト先

- **Pehicle Tours (送迎&オブショナル会社)**
Lot 4 Hibiscus Lane, Mutama Estate Off Goundar RD, Martintar, Nadi, Fiji
Email : pehicle@connect.com.fj
TEL : +679 6724086
Website : <https://www.pehicle.com/>
- **サウス・パシフィックオセアニア SOUTH PACIFIC OCEANIA**
Email : info@spofj.com
TEL : +679 6726200
FAX : +679 6726411
- **H.I.S. (FIJI) Pte Limited**
Shop3, Lot6 Queens Road Martintar, Nadi, Fiji
Website : www.hisfiji.com
- **Tourism Fiji (政府観光局本部)**
Suite 107, Challenge Plaza
Namaka, Nadi
PO Box 9217, Nadi Airport
TEL : +679 6722433
FAX : +679 6720141
Email : infodesk@tourismfiji.com.fj
Website : www.fiji.travel (日本語)
- **Fuji Airways 日本地区総代理店 (株式会社エア・システム)**
TEL : 03-3593-6731

大使館

- **在フィジー日本国大使館**
G.P.O.Box 13045, Level 2, BSP Life Centre, Thomson Street, Suva
TEL : +679 3304633
FAX : +679 3302984
- **在日フィジー共和国大使館**
〒106-0041東京都港区麻布台2-3-5 ノアビル14階
TEL : 0335872038
FAX : 0335872563

貿易・投資コンタクト先

- **Investment Fiji**
6th Floor Civic Tower
Victoria Parade
Suva, FIJI
TEL : +679 3315988
Website : www.investmentfiji.org.fj

写真・情報提供、記事校閲等にご協力いただいた方々 (順不同、敬称略)

Special Thanks to

- Pehicle Tours
- 在フィジー日本国大使館
- (有)PNGジャパン
- Tourism Fiji
- フリーライドアングラース
- Talanoa Treks

PICの著作物に関しては、無断での複写・複製・転載はお断りしています。
さらに、転売・出品も禁止とさせていただきます。

フィジー

発行日：2019年3月31日

発行：国際機関 太平洋諸島センター（PIC）

〒101-0052

東京都千代田区神田小川町3-22-14 明治大学 柴紺館1階

電話：03-5259-8419 FAX：03-5259-8429

E-mail：info@pic.or.jp

URL：https://www.pic.or.jp/

FIJI

